



雪印メグミルク



雪印メグミルクグループ

CSR活動報告書2017

雪印メグミルクグループ 企業理念とCSR経営

雪印メグミルクグループ 企業理念

雪印メグミルクグループの企業理念は、「私たちの使命」と「コーポレートスローガン」で構成します。

私たちの使命

私たち雪印メグミルクグループは、3つの使命を果たし、ミルクの新しい価値を創造することにより、社会に貢献する企業であり続けます。

消費者重視
経営の実践

酪農生産
への貢献

乳（ミルク）に
こだわる

● 消費者重視経営の実践

雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた「消費者の権利」と「事業者の責務」をしっかりと認識し、

- 安全で安心していただける商品・サービスを提供すること
 - 可能な限りの情報提供、情報開示を行うこと
 - 消費者の声を傾聴し、経営に反映していくこと
 - 危機管理の体制を整え、不測の事態に迅速かつ適切に対応していくこと
- を基本姿勢として、消費者重視経営を実践していきます。

● 酪農生産への貢献

私たち雪印メグミルクグループは、日本の酪農を基盤として成り立っています。私たちは、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、乳の価値をしっかりと伝えていくことで生産者の想いに応えていきます。そして、牛乳・乳製品の需要拡大を実現することで、国内酪農生産の基盤の強化と持続的発展に貢献していきます。

● 乳（ミルク）にこだわる

私たち雪印メグミルクグループは、ミルクの持つ無限の可能性を信じ、ミルクに向き合い、ミルクにこだわり続けることで、ミルクの持つ可能性を「深め」、ミルクの価値を「高め」、世界に「広げていく」ことを実現していきます。

コーポレートスローガン

未来は、ミルクの中にある。

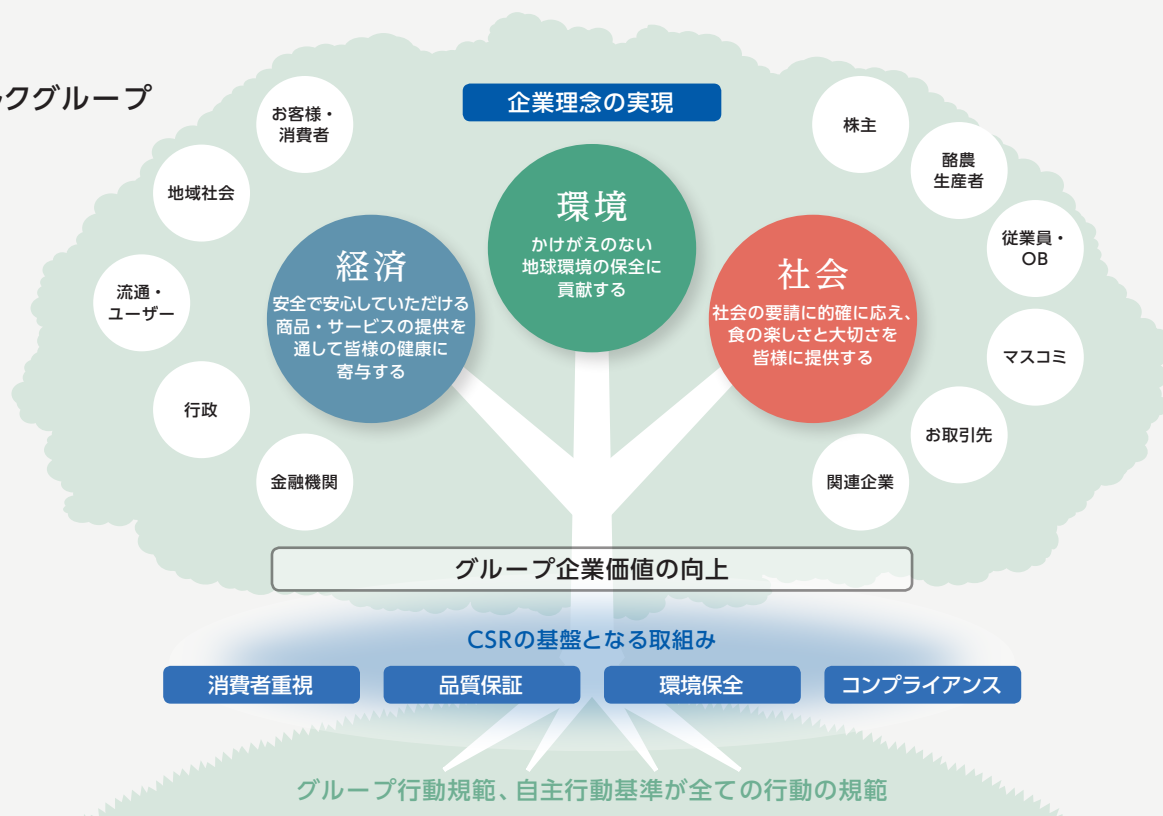
雪印メグミルクグループ CSR 方針

企業理念を実現するために、企業活動において、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)を考慮し、社会とのより良い適合を図りながら、ともに持続的に発展していくための経営を推進しています。

基本的な考え方

- グループ行動規範、自主行動基準に則り、企業理念の実現に向けて行動する。
- コンプライアンスを基本とし、商品・サービスの安全確保(品質保証)の徹底を最重要項目として取り組む。
- 企業倫理を徹底するとともに、「社外目の」を経営に反映し、社会から信頼される企業グループを目指す。

雪印メグミルクグループ
CSR概念図



3つの側面に即した取組みテーマ

経済 主なステークホルダー お客様・消費者、お取引先、株主 取組みテーマ 安全で安心していただける商品・サービスの提供を通して皆様の健康に寄与する 1.「乳(ミルク)」の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力のある商品を開発する。 2.グループ各社の持ち味を活かし、シナジーを発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める。	環境 主なステークホルダー 地球環境、地域社会 取組みテーマ かけがえのない地球環境の保全に貢献する 1.一人ひとりが環境保全への意識を高め、環境保全活動に取り組む。 2.地球環境と資源を大切にするために、全社での環境保全活動を継続的に推進する。	社会 主なステークホルダー お客様・消費者、酪農生産者、従業員 取組みテーマ 社会の要請に的確に応え、食の楽しさと大切さを皆様に提供する 1.消費者基本法を根幹とした、消費者重視経営を実践するための取組みを推進する。 2.酪農生産者の良きパートナーとして、酪農乳業界の持続的発展・国内酪農基盤の強化に貢献する。 3.一人ひとりが主体的に行動し、活力に溢れた、働きがいのある企業風土をつくる。
---	---	--

トップメッセージ

雪印メグミルクグループは 「ミルク未来創造企業」として 社会の持続的な発展に貢献してまいります。

雪印メグミルクグループのCSR経営は、企業理念の実現を通じて、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)を考慮し、社会とともに持続的に発展していくことを掲げています。

2016年度の業績は増収増益となるとともに、中期経営計画に掲げていた当初の目標を大きく上回ることができました。そして、2016年11月には、業界に先駆けて、改正ISO14001の規格認証を全社で取得しました。この取組みなどが評価され、2017年3月には日本政策投資銀行の「DBJ環境格付」認定を受けております。

また、雪印メグミルクスキー部が創部70周年を迎えることができました。今後も日本のスポーツ文化の育成、発展に貢献してまいります。食育活動においては、これまでの講話形式だけではなく体験型のスポーツ食育の実施に取り組むなど、様々な活動を通じて、皆様に食の大切さと尊さ、乳製品の価値をお伝えしてまいりました。

さて、このたび、雪印メグミルクグループは、10年後の目指す姿を描いた「グループ長期ビジョン2026」と、その第1ステージである「グループ中期経営計画2019」を策定し、2017年度よりスタートいたしました。今後もより一層、グループ経営を推進し、ミルクを取り巻く事業活動を通じて、消費者の未来、酪農生産者の未来、そして従業員一人ひとりの未来を創造する、「ミルク未来創造企業」の実現に向けて前進してまいります。

そのためにも、多様な従業員が未来に向かい、希望と誇りを持って幸せに働けるよう、「働き方改革」にも積極的に取り組み、従業員一人ひとりの能力を最大限発揮することで、社会と雪印メグミルクグループの持続的な発展につなげてまいります。

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長

西尾 啓治

目次

編集方針

本報告書は、すべてのステークホルダーに雪印メグミルクグループの活動をご理解いただくことを目的とし、雪印メグミルクグループが2016年度に取り組んだ幅広いテーマについて総括するとともに、目指すべき方向性についても掲載しています。また、従業員の思いを「よりよい未来へ」として紹介しています。

1. わかりやすい構成・表現で制作しました

- (1) 平易な表現に心がけ、専門用語には注釈をつけました。
- (2) 説明が必要と思われる内容については、P. 61以降に補足資料を掲載しました。

2. 社外の声を反映して制作しました

制作段階で、企業倫理委員会と「CSR活動報告書2016」読者アンケートで寄せられたご意見・ご要望を反映しました。

お客様・消費者の併記について

雪印メグミルクグループでは、消費者が持つ基本的な権利を尊重し、単に「お客様」だけではなく、「消費者」全体を重視する経営を進めています。消費者の中に「お客様」を位置付けた上で、「お客様」と「消費者」の2つの概念を併記して表現しています。

経営職の表記について

雪印メグミルクでは、管理職のことを「経営職」と呼称しています。本報告書では、場合に応じて「経営職」と「管理職」の記載が混在していますが、いずれも管理職のことを指しています。

おことわり

本報告書には、雪印メグミルクグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご承知置きますようお願いいたします。

報告対象期間

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)
ただし、必要に応じてその他期間の内容も一部掲載しています。

報告対象組織

本報告書に記載した情報は、雪印メグミルクグループ(雪印メグミルク(株)およびその関連会社)を対象としています。ただし、対象企業すべての情報を網羅しているわけではありません。また、社名の表記のないものは、雪印メグミルク(株)の取組みです。

参考にしたガイドライン

- GRI
「サステナビリティレポート
ングガイドライン(第4.0版)」
- 環境省
「環境報告ガイドライン(2012
年版)」
- ISO26000
(社会的責任に関する手引き)

発行時期

今回の発行:2017年6月
次回の発行:2018年6月予定
●本報告書は、年次版として毎年発行しています。

お問い合わせ先

雪印メグミルク株式会社 CSR部
東京都新宿区本塩町13番地
TEL. 03-3226-2064 FAX. 03-3226-2163

- 01 雪印メグミルクグループ 企業理念とCSR経営
- 03 トップメッセージ
- 05 雪印メグミルクグループについて

11 特別対談 | 西尾社長×札野教授

社員の幸福(Well-being)を高めることで、雪印メグミルクグループの長期ビジョン実現を目指します。



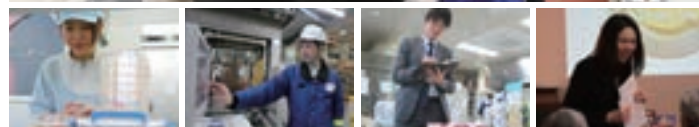
雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長
西尾 啓治

国立大学法人 東京工業大学
リベラルアーツ研究教育院 教授
札野 順 氏

15

特集

ミルクとともに
よりよい未来へ



- 21 消費者重視経営の実践
- 27 酪農生産への貢献
- 31 乳(ミルク)にこだわる
- 35 環境への取組み
- 41 社会の皆様とともに
- 47 コーポレート・ガバナンス
- 55 人材の多様性確保と働きやすい環境の整備
- 61 補足資料
- 67 ステークホルダーメッセージ

雪印メグミルクグループについて

雪印メグミルクの前身のひとつが、関東大震災後の食糧政策によって窮地に立った北海道の酪農を救うために生まれた、生産者による組織「有限責任 北海道製酪販売組合」です。協同の力で新たな酪農の基礎を築こうとした開拓者精神を受け継ぎ、90年余りにわたって日本の酪農とともに歩んできました。



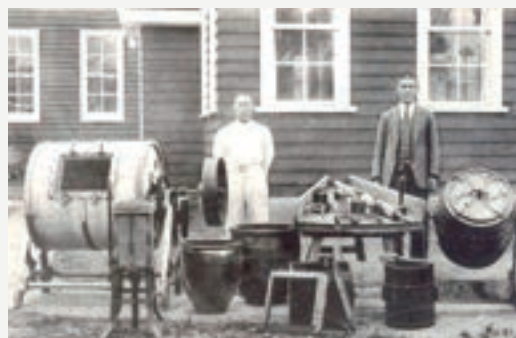
全国農協直販株式会社

- 1972
「全国農協牛乳直販(株)」設立
- 1974
「全国農協直販(株)」に社名変更

1925

雪印メグミルクの歴史は 北海道バターから始まりました

創業と同時に集乳体制を整え、バター製造を開始しました。1926年に近代的な札幌中央工場ができてからは、最高級品だけを「雪印北海道バター」として販売し、信頼を築きました。



1934

日本で初めてチーズの大規模製造を始めました

1928年ごろからチーズの研究・試作、試験販売を始め、1933年には遠浅工場を建設しナチュラルチーズの製造をスタート。1934年のプロセスチーズ発売直後から売り切れ続出の盛況で、またたく間に日本初の大規模チーズ専門工場となりました。



2000
雪印乳業食中毒事件

2002
雪印食品牛肉偽装事件

1985
全国農協直販(株)と全国農協乳業(株)が合併し「全国農協直販(株)」に名称統一

ジャパンミルクネット株式会社

1996
「ジャパンミルクネット(株)」設立
全国酪農業協同組合連合会(全酪連)の100%子会社として牛乳・乳製品の製造・販売を開始

日本ミルクコミュニティ株式会社

2003
雪印乳業(株)の市乳部門・全国農協直販(株)・ジャパンミルクネット(株)の市乳部門が統合し「日本ミルクコミュニティ(株)」設立

雪印メグミルク株式会社

2009
日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)が経営統合し共同持株会社「雪印メグミルク(株)」設立

2011
雪印メグミルク(株)が日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)を吸収合併

1933

研究を通して、ミルクの未来を拓いてきました

研究部門が設置されたのは1933年のこと。加工技術や成分、乳酸菌の研究を行ってきました。その後、札幌研究所、技術研究所(現ミルクサイエンス研究所／埼玉県)、チーズ研究所(山梨県)を開設し、本格的な研究体制を整えました。

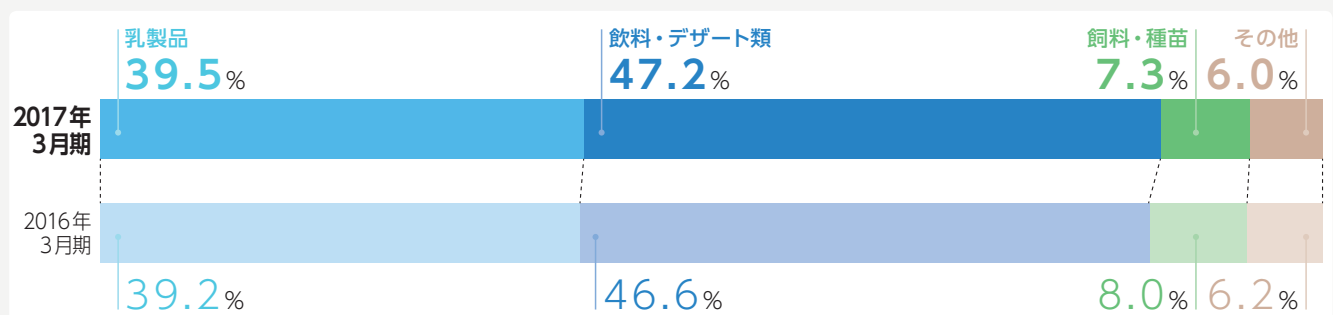


事業内容

事業内容および事業の種類別セグメントは、下表のとおりです。

乳製品事業	主な製品	会社
	■ 乳製品 (チーズ・バター・粉乳等) ■ 油脂(マーガリン等) ■ 育児品 (乳児用粉乳等)	雪印メグミルク(株) / 雪印ビーンスターク(株) / ハケ岳乳業(株) / 甲南油脂(株) / チェスコ(株) / (株)エスアイシステム / 雪印オーストラリア(有) / 台湾雪印(株) / 三和流通産業(株) / イーエヌ大塚製菓(株) / 協同乳業(株) (合計11社)
飲料・デザート類事業		
	■ 飲料 (牛乳類、果汁飲料等) ■ ヨーグルト、デザート類	雪印メグミルク(株) / ハケ岳乳業(株) / (株)エスアイシステム / いばらく乳業(株) / みちのくミルク(株) / 三和流通産業(株) / 協同乳業(株) (合計7社)
飼料・種苗事業		
	■ 牛用飼料 牧草・飼料作物種子 ■ 野菜種子等	雪印種苗(株) / 道東飼料(株) (合計2社)
その他事業		
	■ 不動産賃貸 ■ 共同配送センター事業等	雪印メグミルク(株) / (株)フレスコ / (株)雪印パーラー / (株)YBS / (株)エスアイシステム / ニチラク機械(株) / (株)ロイヤルファーム / (株)RFペンケル牧場 / (株)RF青森牧場 / 三和流通産業(株) / 直販配送(株) / 北網運輸(株) / 日本ポート産業(株) / 日本乳品貿易(株) / (株)アミノアップ化学 (合計15社)

セグメント別売上構成(連結)



連結業績ハイライト

2016年度は、チーズやヨーグルトなどの主力商品の販売拡大、高付加価値品の拡売によるプロダクトミックスの改善、ならびに戦略投資設備の有効活用による生産性向上などに努め、当期を最終年度とする「雪印メグミルクグループ中期経営計画」に掲げた「事業構造改革」や「戦略投資設備の最大活用」など戦略の4つの柱を着実に実行いたしました。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に閉鎖工場などの売却益を計上したことから、129億円(前期比86.3%)と減益になりましたが、連結売上高は5,879億円(前期比101.7%)、連結営業利益は187億円(前期比133.9%)と増収増益となり、最終年度の定量目標(連結営業利益130～150億円)を大きく上回り、次なる成長のための基盤固めを実現いたしました。

経営成績

(億円、%)

	2016年 3月期	2017年 3月期	増減額	前期比
売上高	5,783	5,879	+96	101.7
営業利益	140	187	+47	133.9
経常利益	142	202	+60	142.5
純利益*	150	129	▲20	86.3

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

セグメント別内訳

(億円、%)

	乳製品		飲料・デザート類		飼料・種苗		その他	
	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比
売上高	2,323	102.4	2,774	103.0	430	93.6	350	97.3
営業利益	117	123.9	46	201.2	12	145.9	11	83.1

株主・投資家との対話(IR活動)

基本的な考え方

当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のためには、株主、投資家の皆様のご理解とご支援が不可欠であることから、建設的な対話を今後さらに強化していくことで、長期的な信頼関係を構築していきたいと考えています。

IR体制、対話の手段、社内へのフィードバック、インサイダー情報の管理について詳細はこちらへ
コーポレート・ガバナンス「株主との対話および情報開示」
<http://www.meg-snow.com/ir/governance/>



札幌証券取引所での個人投資家向け会社説明会でIR担当役員がプレゼンしました

株主への情報開示

正確な企業情報を適時に開示します。また、英文による開示についても、今後積極的に行ってまいります。

中期経営計画をはじめ当社が開示する情報は、分かりやすい表現を心がけるとともに、目標数値の明示など具体的な記載に努め、経営の透明性のさらなる向上を目指します。

業績、事業内容、経営方針などは当社ホームページ内のIRサイトにも掲載しています。

IRサイト
<http://www.meg-snow.com/ir/>

2016年度 IR活動実績

		実施回数
アナリスト、機関投資家	決算説明会	2回
	スモールミーティング	12回 (四半期毎に3回)
	個別ミーティング	136回
	施設見学会	1回 (海老名工場)
	カンファレンス	2回
個人投資家	個人投資家向け会社説明会	5回 (400名超)

雪印メグミルク グループ長期ビジョン2026・中期経営計



このたび、当社では初めて10年後の雪印メグミルクグループの目指すべき姿を示した「グループ長期ビジョン2026」を策定いたしました。これは、未来に向けて、雪印メグミルクグループのさらなる成長・進化を目指す新たな羅針盤となるものです。

その背景として、貿易の自由化や生乳取引制度の変更など、当社を取り巻く環境が大きく変化していることが挙げられます。

これらの環境変化に対応しながら、企業として持続的な成長をしていくためには、10年という大きな流れを見渡した上で、直面する課題に取り組んでいくことが必要となります。

「グループ長期ビジョン2026」は、我々のすべての活動の基軸となる「グループ企業理念」を踏まえ、消費者の未来、酪農生産者の未来、そして従業員一人ひとりの未

来の3つの未来を描き、「**ミルク未来創造企業**」と名づけました。

そして、この実現に向けて取り組んでいくことは、次の3点です。

① 事業ポートフォリオの変革(Transformation)

持続的な成長を可能とするため、複数の事業が収益を創出できる、新しい時代の事業ポートフォリオに変革していくこと。

② 事業成長を支える生産体制の進化(Renewal)

事業ポートフォリオの変革と連動し、新しい時代の実体制を創りあげていくこと。

③ グループ経営の推進(Group Management)

①②の取組みをグループ全体で進め、グループの総合力を強化していくこと。

雪印メグミルクグループは、この10年で「変革」「進化」ととげ、新たな時代を築くべく、「ミルク未来創造企業」を目指してまいります。

雪印メグミルク グループ長期ビジョン2026

VISION

長期ビジョン

雪印メグミルクグループが10年後に目指す姿を描いたもの。「企業理念」実現の具体的な姿・構想であり時代の要請に応じて変化するもの。

「ミルク未来創造企業」3つの未来



乳(ミルク)で食の未来を創造します。



酪農生産者の未来に貢献します。



私たち社員の未来を拓きます。

Transformation & Renewal
「変革」、そして更なる「進化」へ

MISSION

企業理念

雪印メグミルクグループの存在意義および社会的使命(ミッション)を定めたもの。時代を経ても変わることのない「存立基盤」「基軸」となるもの。

VALUES

雪印メグミルク バリュー

長期ビジョンを達成するための行動において雪印メグミルクグループの役職員一人ひとりが大切に考える共通の姿勢・価値観。

主体性

自分から動き出そう。
私が実現したい未来のために。

チャレンジ

チャレンジを楽しもう。
なりたい私の未来のために。

チームワーク

チカラを重ねよう。
私たちみんなの未来のために。

消費者重視経営の実践

酪農生産への貢献

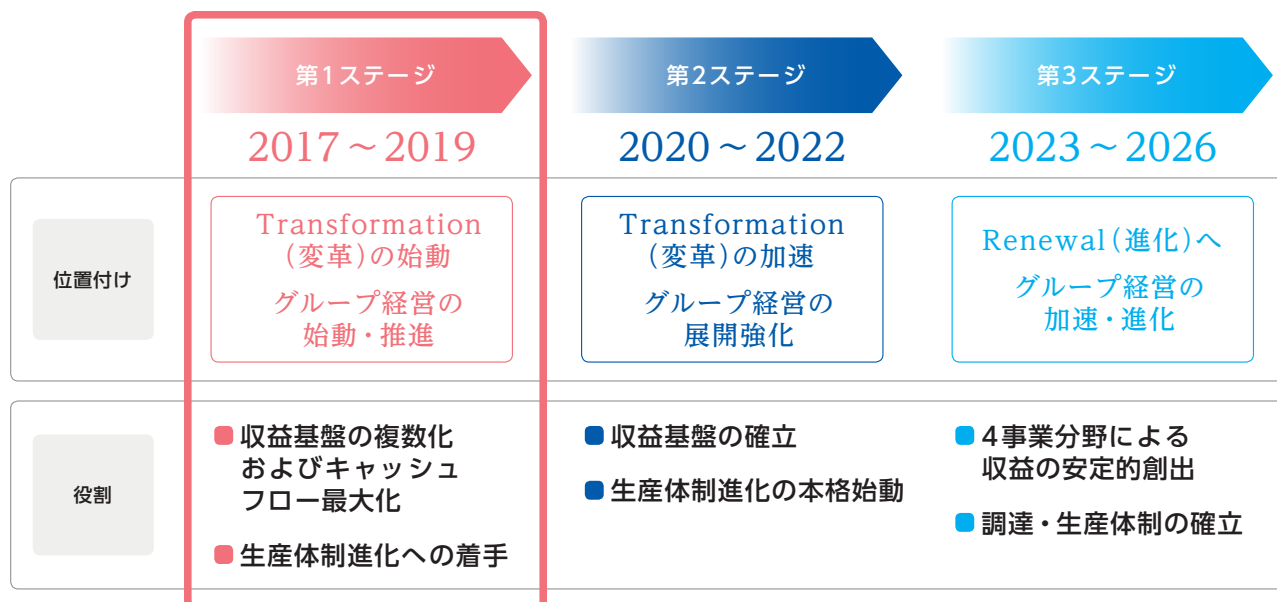
乳(ミルク)にこだわる

未来は、ミルクの中にある。

グループ中期経営計画2019 3つのステージの位置付けと役割

長期ビジョンの第1ステージとなる「グループ中期経営計画2019」は、「グループ長期ビジョン2026」の実現に向けて、事業ポートフォリオの変革をスタートさせるステージです。

この3年間で、現状の課題解決に向けた「中期の基本戦略」を実行していきます。



中期の基本戦略

① 事業ポートフォリオを変革して、新たな成長機会を創出し、収益基盤の強化を図る。

- (1) 「乳製品」事業分野
 - ・バターの安定供給とブランド強化
 - ・チーズのボーダレス展開によるさらなる成長
- (2) 「市乳」事業分野
 - ・機能性を軸としたヨーグルトの戦略的拡大
 - ・プロダクトミックスの最適化
- (3) 「ニュートリション」事業分野
 - ・機能性食品事業の成長モデル構築
 - ・価値訴求による粉乳事業の競争力強化
- (4) 「飼料・種苗」事業分野
 - ・種苗事業の戦略的拡大
 - ・飼料事業の効率化による収益性向上

② 将来(10年後)に向けて、戦略的な調達・生産体制を構築し、競争基盤を確保する。

- (1) 国内・海外における安定調達の推進
- (2) 国内乳資源の確保と有効活用
- (3) 高収益・成長分野への重点投資
- (4) 将来を見据えた生産体制進化への着手

③ 研究開発を起点とした「ものづくり」によって、新たな価値を創造する。

- (1) 研究開発起点の付加価値創出
- (2) 需要創造型・高付加価値商品の開発推進
- (3) マーケティング機能の強化

④ 人材の多様性を尊重し、それを活かすことによって、生産性の高い、成長し続ける組織を構築する。

- (1) 人材の多様性の確保
- (2) 労働生産性の向上と業務改革
- (3) グループ人材育成

⑤ グループ内の経営資源を有効活用して、企業グループ全体としての競争力・総合力の最大化を図る。

- (1) グループ長期ビジョン2026、グループ中期経営計画2019、雪印メグミルク バリュウの共有化
- (2) グループ・バリュウチェーン*の継続的な強化
- (3) グループ・コーポレート機能の強化
(人事、財務、広報IR、監査、リスクマネジメント、IT、CSR、ビジネスサポート、社会貢献 など)

※グループ・バリュウチェーン:

原材料の調達から製品・サービスが顧客に届くまでのグループ全体の企業活動を、一連の価値(Value)の連鎖(Chain)としてとらえる考え方。

東京工業大学の札幌教授は、技術者が幸せになるための倫理教育や、ポジティブ心理学・教育に携わられています。今回は、札幌教授と西尾社長が、人が幸福になるための倫理とWell-beingや、雪印メグミルクグループが大切にしているものについて対談を行いました。

西尾 当社は、2000年の「雪印乳業食中毒事件」、2002年の「雪印食品牛肉偽装事件」を風化させないという思いで、毎年1月と6月に「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」を継続し、食に携わる者としての高い使命感・倫理観を社員全体で共有する取組みを進めてきました。また、CSR活動を、リスクマネジメントを中心に行ってきました。しかし、これからはもっと前を向いて、未来志向で進めていきたいという社員の声もあり、2017年1月、札幌先生には「志向倫理」についてご講演いただきました。

札幌 病気にならないための医療を予防医療というのと同様に、「予防倫理」は不祥事や事故を起こさないための倫理やそのための教育に関する考え方です。これまでの技術者倫理では、「予防倫理」が強調されてきました。しかし、古代ギリシアのアリストテレスの時代までさかのぼって「倫理とは何か」を考えてみると、Well-being（よく生きる）、つまり、よい人生を送るために、どう考えて、どう行動すべきか、これが倫理の本来の意味だということがわかります。すなわち、「予防倫理」は倫理の一側面でしかないのです。そこで近年、「予防倫理」だけでなく、よく生きるためにどのように意思決定し、行動すべきかを考える「志向倫理」の重要性が認識されてきています。私も「志向倫理」の観点から、技術者が社会に貢献した例について考察し、技術者として優れた意思決定と行動ができるような教育・研修の方法を考えています。

社員の幸福（Well-being） 雪印メグミルクグループ 目指します。

Well-beingと経済的な豊かさは
相関するのでしょうか。（西尾）

Well-beingの指標としてPERMA
モデルが提唱されています。（札幌）

西尾 物質的に豊かになることで、Well-beingも向上するのでしょうか。

札幌 日本のGDPは、多くの企業の努力によって、世界3位になりました。しかし、こんなに豊かで、安全で、住みやすい国なのに、自殺者数は、最近少なくなってきたとはいえ、2016年も21,000人を超えていることも事実です。OECDのWell-being

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長
西尾 啓治

インディケーターに「生活の満足度」という項目がありますが、OECDの平均では6割くらいの人が満足している一方で、日本の場合は4割にも達していません。また、収入が上がっていくにつれて、生活満足度が下がっていくという調査結果もあります。

西尾 経済的な豊かさと幸福度は、相関していないということですね。

札野 この問題については、いろいろな調査の結果がありますが、少なくとも日本の場合は、物質的に豊かになってもそれがWell-beingにつながっていないと言えるでしょう。

西尾 では、何が人間を幸福にするのでしょうか。

札野 アリストテレスは、「人生の課題は、幸せ(Well-being)を手に入れることなのだ」と言っています。これについて、近年まで科学的な検討がなされることはありませんでしたが、1998年、アメリカ心理学会の会長に選ばれたマーティン・セリグマン

ている段階です。例えば、セリグマン教授は、Well-beingを一つの指標で測ることはできないものの、それを構成する要素には測定できるものがあるとしています。彼が提唱するPERMA(パーマ)モデルは、Well-beingの測定可能な5つの因子として、P(ポジティブエモーション: 楽しい嬉しい気持ちなど)、E(エンゲージメント: 何かに集中して時間を忘れるような体験、没入すること)、R(リレーションシップ: 他者との良好な関係)、M(ミーンイング: 自分よりも大きな存在に貢献すること)、A(アチーブメント: 何かを達成すること)を挙げています。つまり、これらの因子が高まることで、人はWell-beingを高めることができるということです。

being)を高めることで、 プの長期ビジョン実現を

は、その所信表明講演で、「精神的な疾患を抱えている人は多くても3割、残りの健康に生きている7割の人たちがよりよく生きるために心理学の知見を使ってもいいのではないかと、心理学の方向性を示しました。この発言をきっかけとして、Well-beingの科学的な検討が始まったのです。その後、研究は急速に進み、多くの成果が生まれています。さらに、企業や地方自治体、あるいは国レベルでも、その科学的研究成果が応用されはじめています。

しかしながら、長い人類の歴史からみると、「幸せ」に関する科学的研究は始まったばかりで、万人が認めるWell-beingに関する理論が構築されているわけではなく、現状では様々な理論が提唱され



国立大学法人 東京工業大学
リベラルアーツ研究教育院 教授

札野 順 氏



私たちは、「雪印メグミルク バリュー」である「主体性」「チャレンジ」「チームワーク」を大切に、長期ビジョンの実現を目指します。(西尾)

これは、PERMAモデルと非常に結びつきが強いと思います。(札野)

西尾 私たちは、この春に「グループ長期ビジョン2026」を打ち出しました。この長期ビジョンの達成に向けて、「雪印メグミルク バリュー」の3つの価値観、「主体性」「チャレンジ」「チームワーク」を大切にしていきます。これらは、PERMAモデルの考え方と共通性がありますでしょうか。

札野 そうですね。自分が主体的に動くことでポジティブな感情が高まり、同時にエンゲージメント(没入)が深まっていきます。自分の持っている能力よりも少し高いものにチャレンジすることによっても、エンゲージメントが深まります。そして何のために自ら動くかという、御社の場合は、消費者の方々、あるいは酪農家の方々のために、自分は何ができるかを考えて主体的にチャレンジをする。これは、自分よりも大きな存在のために貢献することですから、ミーニング(意義と目的)です。それをチームで達成していくということですから、これは、良い人間関係(リレーションシップ)を築くことにつながります。本当に、PERMAモデルと結びついていると思います。「雪印メグミルク バリュー」を大切にすることで、社員の方々のWell-beingは必ず高まると思います。

幸福度と仕事の関係についてお聞かせください。(西尾)

成功した人たちが幸せなのではなく、よく生きた人たちが成功しています。(札野)

西尾 一般的には、仕事に取り組んで業績が上がること、人は幸福になると考えられていますが、先日の講演では、幸せな人が仕事をすることで業績が上がるというお話をいただきました。

札野 これは、2005年に発表された調査結果によるものです。これまでの心理学の多くの研究結果が、ポジティブ心理学の視点で改めて分析されたのです(メタ分析)。例えば、ハーバード大学の卒業生を追跡調査した膨大なデータがありますが、これをポジティブ心理学の立場から分析してみました。すると、勉強に集中して将来の成功を目指して学生時代を過ごした人たちと、仲間を作り、様々な活動をして学生時代をよく生きていた人たちでは、健康状態、家族との関係、収入、社会的な地位など、すべてにおいて後者の方がよい傾向であることがわかったのです。また、イギリスのある調査によると、Well-beingを高めると生産性が高くなるという実験結果が出ています。成功した人たちが幸せなのではなく、よく生きた人たちが成功しているのです。

札野 順 氏プロフィール

1980年 国際基督教大学教養学部理学科物理学専攻卒業
1982年 国際基督教大学大学院教育学研究科博士前期課程修了
1988年 スミソニアン研究所アメリカ歴史博物館大学院生フェロー
1990年 オクラホマ大学大学院科学史研究科博士課程修了(Ph.D.取得)、金沢工業大学助教授
1994年 金沢工業大学教授
2004年 金沢工業大学大学院工学研究科専攻共通主任、同大学科学技術応用倫理研究所所長
2015年 東京工業大学大学マネジメントセンター教授
2016年 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授



Well-beingの実現に対して、社員から色々なアイデアが出てきました。(西尾)

どれもすべてWell-beingを高める正しいアイデアです。(札幌)

西尾 幸せな人の方が、生産性が高く、創造性も豊かなんですね。Well-beingが生産性を上げるとすれば、社員が幸せを感じている会社は業績が上がると考えていいと思うのですが、日常的にWell-beingを高めるために何をすればいいでしょうか。講演後社員に行ったアンケートでは、職場で実践しようとしていることとして、「これまで以上にコミュニケーションを大事にして、朝礼や夕礼で社員をほめる、感謝する」「感謝している人、モノを5つ挙げる」「幸せであるために健康を高める」といったアイデアが出ていますが、これらは有効なのでしょう。

札幌 今、挙げられたもの、すべてが有効であることは、科学的に実証されています。誰かに感謝をする、感謝している相手に手紙を書く、さらに、それを実際に相手に届けることでWell-beingが高まることは、心理学的に確かめられています。また、自分のまわりに起こった良いことを3つ書きとめるという行為だけでも、Well-beingが高まります。さらに、自分自身が健康であることや、自分の健康に対する認識の高い人たちの方が、Well-beingが高いこともわかっています。

仕事を通じた自己実現や幸せ、それによる生産性の向上のためには、自分の内側から生まれるモチベーションが必要です。(札幌)

企業の成長と社員の幸福が好循環するグループを目指します。(西尾)

西尾 社員が幸福に働けるよう、この数年、「人材の多様性の確保」「労働生産性の向上と業務改革」「人材育成」の3つを軸に働き方改革を進めています。「人材の多様性の確保」については、当社グループは乳児からシニアまでを対象とした幅広い商品・サービスを展開していますが、その市場においては、多様なライフステージ・変化し続けるニーズな

ど、ビジネス環境は年々複雑化し、常に新しい視点・アイデアが求められています。そのためにも、「違う知識・経験・背景を持っている人」が会社にたくさんいることが必要であり、女性、シニア、外国人、中途採用を含めて、多様な人材がチームワークを持って仕事をするのが大切だと考えています。また、育児・介護など時間的な制約がある中で、仕事と生活を両立するための制度も整えてきています。一方、長時間労働を前提とした働き方を是正するためにも、2番目の柱である「労働生産性の向上と業務改革」も進めています。これは、労働時間の長さではなく生産性に注目し、短時間でも集中して効率を向上させていこうという取り組みです。新しい仕事のやり方を取り入れながら業務改革を進めることは、社員の幸せにつながると思います。また、多様な人材が高い生産性を持って働くには、個々の強さが基本になりますから、3つ目の「人材育成」にも力を入れていきます。自分自身がスキルアップし生産性を高め、仕事を通じて自己実現をすることで幸せを感じる機会を提供することは重要だと思っています。この3つの軸を、着実に進めていきたいと思っています。

札幌 そのために重要になるのはモチベーション、動機付けだと思います。多様なものに対応していくには、生産性を追求するために仕事をするのではなく、自分自身の内側からおこるモチベーションが必要だとされています。そのモチベーションは、社会に貢献していること、会社や仕事に対する誇り、感謝の気持ちを感じながら仕事を遂行していくことなどによって生まれてくるものだと考えています。この考え方は、これまでの報酬や罰則を使った外的な動機付けによる社会や組織のあり方である「モチベーション2.0」に代わるべきものとして、「モチベーション3.0」と呼ばれています。

西尾 ビジョン実現に対して、自ら動機付けをすることが大事なのですね。雪印メグミルクグループは、多様な社員が幸福に働き、そのことが社会に貢献しながら企業の持続的な成長につながり、再び社員の幸福へと好循環していくことを目指していきます。

札幌 西尾社長とお話をしていて、御社はすでに、その方向に歩み始めていらっしゃると感じています。

西尾 本日は、ありがとうございました。

ミルクとともに よりよい未来へ

雪印メグミルクグループは、酪農とともに歩み、お客様・消費者の皆様
にミルクの価値を上げる活動を続けてきました。

今回、従業員一人ひとりが胸に抱いている、ミルクを通じて育んできた
誇りや、業務を通じてどのように「雪印メグミルク バリュー」である主
体性、チームワークを高め、チャレンジを心がけていくかについて、自ら
の言葉で語りました。

よりよい未来に向けて、雪印メグミルクグループはこれからも、社会に
ある課題の解決と持続可能な社会の実現のために貢献してまいります。

首都圏の数少ない観光牧場のひとつ
として、命と食の大切さをお客様に
お伝えする仕事に誇りと使命感を
持っています

寺井 晃子

株式会社雪印こどもの国牧場 飼育部





子供たちの心身のすこやかな成長をテーマにつくられた施設です

「こどもの国」は、1965年、当時の皇太子・妃両殿下のご成婚記念事業として開園した施設です。ここに、当時の雪印乳業が「雪印こどもの国牧場」を建設しました。私たち飼育部は、ここで乳牛30頭ほどの世話をしています。

入社から2年目、人工授精師の資格を取得しました

2016年、家畜人工授精師の試験に合格することができました。それにより仕事の幅が広がりましたし、牛に関する科学的な知見を深めることができて自信もつきました。日頃の業務においても、私の職場はそれぞれの意欲を伸ばし、助け

合いながらお互いのチャレンジを支え合う風土があります。女性だからと言って仕事を制限されることも一切なく、主体性を尊重し、重機の操縦や土木作業など何でも挑戦させてもらえます。

1杯の牛乳のうしろにある、命のドラマを感じて欲しいと思っています

普段何気なく飲んでいる牛乳の背景にある酪農という仕事、牛たちの体温とその命の尊さを感じ、感謝の気持ちを子供たちが持ってくれたら、と願っています。私自身、仕事の中で1年に何度も生と死に向き合い、牛たちから多くのことを教えてもらいますし、それらを首都圏の数少ない観光牧場のひとつとしてお客様にお伝えできることに、誇りと使命

感を感じています。ですから、単に牛を見せるだけではなく、私たち飼育員がお客様や子供たちと触れ合い、対話する機会を多く作れるよう心がけています。子供たちが一生懸命耳を傾けてくれるとき、牛に関心を持って話しかけてくれるとき、私もとても幸せな気持ちになります。

都会に住む子供たちにとって、命や自然に触れることは最高の教材になると思います。2017年度は、若手社員で構成する広報委員になることができました。新たな視点、手法で酪農理解と食育の活動を進めていきたいと思い、今、イベントなどのプランをあれこれと練っているところです。

これからも「大切な人に、 自信を持って飲んでいただける製品」 を意識していきます

加茂 裕佳

神戸工場 品質管理課



安全で安心していただける製品のために、とても重い役割を担っていると感じています

牛乳・乳飲料を製造する神戸工場で、原材料や出荷前製品の安全性検査、官能評価*訓練の運営など、品質に関わる業務全般を担当しています。

例えば、牛乳1本ができるまでには、1回の微生物検査、2回の成分検査、4回の官能評価を行います。先輩から教えられた「自分にとっては毎日の作業の『一部』でも、お客様にとっては目の前の『1本』である」という言葉を胸に、自信を持って飲んでいただける製品を送り出すための最後のチェック機関であることを、日々強く意識しながら取り組んでいます。

*原料や製品を人の感覚器官(味覚、嗅覚、視覚など)によって調べ、評価すること。

主体的に行動できるようになるために、積極的に現場に入っています

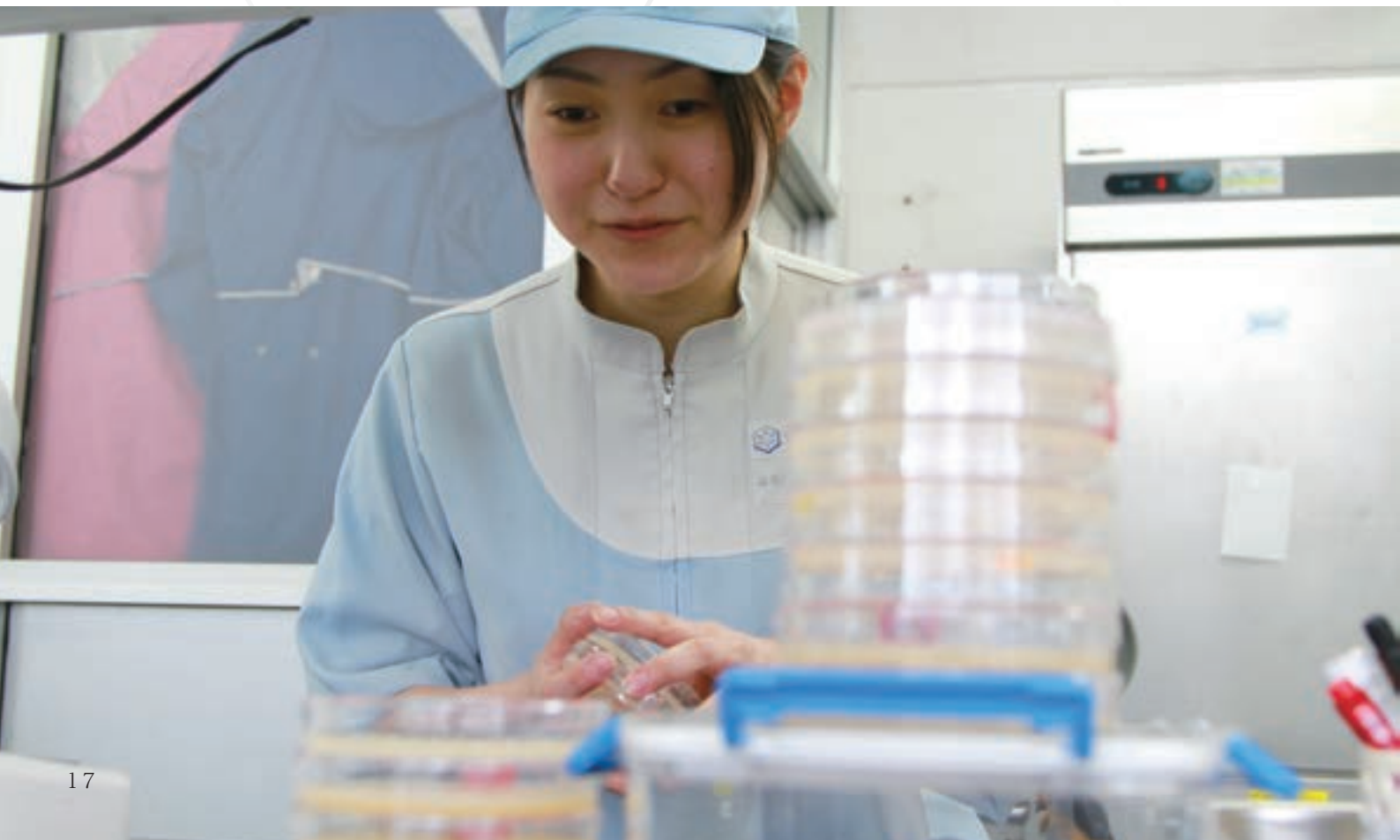
私は、入社以来11年間、一貫して品質管理に携わっています。工場勤務とは言え、検査室内での仕事がメインですので、製造ラインの現場から得られる情報は意識して取りに行かないと、机上の仕事に偏って視野が狭まる恐れがあると考えています。ですから、製造ラインの衛生性検査や工程検査があるときには進んで参加し、知識と経験を積み重ねるようにしています。それをもとに自分で考えて、やってみる、先輩や上司にアドバイスを仰ぐというやり方で、自分の中のPDCAサイクルを回しています。

2016年からはチームのまとめ役としての役割をいただき、これからもさらにチャレンジを重ねていきたいと思っています。

地域や社会をより良く変えるために、できることから始めています

神戸工場には、ISO14001推進のため、部署を超えた環境部会という組織があります。私もメンバーとして、省エネパトロールで水や蒸気の漏れを点検したり、リサイクル推進の冊子を従業員向けに作成、配布するといった活動を行っています。

また、品質安定性の確認と維持は、ひいては食品廃棄物の削減にもつながります。雪印メグミルクグループが社会の課題に対応し、未来へ向けて持続可能な社会を目指していくためにも、まずは私自身が確実に、真摯に、日々の業務をこなしていくことが大切なことだと思っています。





ビッグプロジェクトで分かったことは 「お客様に商品をお届けする」という 重みとチーム一体となってチャレンジ することの大切さでした

中田 州尚

ロジスティクス部 阿見総合物流センター

ゼロからスタートした阿見総合物流センター

阿見総合物流センターは、当社最大規模の物流施設として、新設の阿見工場敷地内で2013年に稼動を開始しました。社内にセンター運営のノウハウが無く、保税倉庫^{※1}としても運営するため外国貨物(輸入原料チーズ)の取扱いや通関の知識が必要であり、ゼロからの職場づくりでした。

私にとっては、今から7年前、SCMシステム^{※2}構築プロジェクトのメンバーとして参画したときから、この仕事は始まっていました。センターが稼動し、進めてきた仕事が形になったときの達成感、やはり何物にも代えがたいものでした。

チームワークとスキルを高めるため、日々現場で格闘しています

原料や商品の受入れと保管、そして、商品をお客様へ無事にお届けするという私たちの業務を遂行するうえで重要なのは、人材です。メンバーの長所と個性、主体性を発揮してもらうために、「どうすれば良いのか」「なぜそうするのか」といった対話を欠かさないように心がけています。女性もいますが、業務上、男女で特別な区別はありません。また、倉庫内作業は社外へ業務委託しており、協力会社も含めてチームワークは欠かせません。大切なのは「みんなが活躍すること」であり、そこから良い仕事、良い成果が生まれると信じています。

先日、センター内で設備トラブルがありましたが、商品を安定的に供給するという

共通認識のもと、チームが一致団結して迅速に対応した結果、被害を最小限に抑えることができました。これも日々培ってきたチームワークの成果だと思っています。

大切な商品をお客様にお届けするために、日々チャレンジを重ねていきたい

4年目となる今、立ち上げから現在の安定稼動にいたるまでに経験したことやノウハウを、後進に伝えることが最大の使命だと感じています。これからも商品をお客様の元にお届けするために、日々チャレンジして、成果を生み出していきたいと思っています。

※1 輸入した原料チーズを未通関のまま搬入し、必要なタイミングで通関し、製造にまわすことができる保税蔵置場の許可を受けた倉庫のこと。

※2 在庫の最適化などを図るために、調達から販売までのサプライチェーン全体の情報を集約し、一元管理するシステムのこと。



乳製品の可能性を信じて、 お客様の食と幸せに貢献していきたい



柳本 浩史

業務製品事業部 関東業務製品営業グループ

苦労を重ねたあとにお客様の笑顔を見ると、喜びもひとしおです

私は、外食、製菓・製パン、給食などのユーザーに対して業務用乳製品の販売を行う部署で、居酒屋やカフェとその卸店を担当しています。業務用の場合、一つの商品が正式に採用されるまで、何度もメニュー提案を繰り返します。

乳製品は、胸を張って「健康に良い」と言える商品です。また、そこには無限の可能性があると信じています。そのため、商談でも自信を持ってお勧めすることができますし、自分の提案が受け入れられ、お店でお客様が召し上がっている姿を見るときは本当に嬉しいものです。

メンバーがお互いを知ることで、協力体制は高まっていきます

私たちは、新規ユーザー開拓にチャレンジする中で、最近、強化キャンペーンを行いました。その過程では、成功事例を共有しながらお互いの商談クオリティを上げたり、自分の担当する卸店で解決できないユーザーを潔く他のチームメンバーに紹介することで、取引が実現するといったこともありました。自分本位ではチームは良くならないということを、皆が理解しているのだと思います。

そして、私が大切にしているのは職場での日常的な情報共有、つまり雑談です。新しい発想や、メンバーの協力を得られたりするきっかけって、意外と雑談の中にあるんです。

10年後の雪印メグミルクグループと自分ができることは何か、常に問い続けています

実は、自己啓発として英会話の勉強をやっています。今はまだまだといった感じですが、将来的には海外事業で活躍できたらと、秘かに夢を描いています。

国内市場がコモディティ化^{*}していく中、10年後には雪印メグミルクグループが国内外にミルクで新市場を創造し、国内酪農振興と食料自給率の改善、そして日本の食文化の発展において確実に一翼を担っている、そんな「ミルクの先進企業」になればと思っています。そのために、今の私は、営業担当として知り得る市場や消費者の情報を企画部門へ積極的に伝えることで、その一助になりたいと思っています。

※商品の付加価値や差別性が薄れ、消費者の選択基準が価格や容量などになっていくこと。





お客様に役立つ情報と牛乳・乳製品の価値を、楽しく分かりやすくお伝えするよう心がけています

唐住 泉

関西販売本部 関西コミュニケーションセンター

企業姿勢や商品の魅力を、一つ一つの商品に自信と愛情を持ってお伝えしています

私たちは7名のチームで、栄養士の資格や、それぞれの経験を活かしながら日々食育活動に励んでいます。

実は、これだけ飽食の時代と言われるながら、カルシウムは平均摂取量が推奨量を満たしたことが一度もありません^{*}。自分自身も含めて「80歳になっても背筋の伸びたカッコイイおばあちゃんであること」を目標に、これからも、たくさんの方に食の大切さと、健康に役立つ牛乳・乳製品の価値をお伝えしたいと思っています。

※「国民健康・栄養調査」より

お客様に分かりやすく効果的に伝えること、喜んでいただくことを常に

一番に考えているチームです

出前授業、料理教室やセミナーが、主な食育活動です。メンバーは、パートやシニア社員などを含む多様な男女で構成され、全員が勤務時間もライフスタイルも異なりますが、お客様にいかに関わりやすくお伝えするか、喜んでいただくという目的が共有されており、普段からチームワークは抜群です。例えば、その日の講師を務めるメンバーが話やすく、動きやすいよう、結果としてお客様が快適に過ごせるよう、アイコンタクトと^{あう}呼吸で静かに動く連携プレーには、皆さんが感心してくださいます。

お客様の前に出たら、全員が雪印メグミルクの看板を背負っています。お客様からの「ありがとう」というお言葉も、私個人にではなく、雪印メグミルクへの感謝だと思っています。食育担当として、

直接お客様と向き合えることに、日々喜びを感じています。

お客様とのより良い関係を築き、これからも乳の良さを広めていきたい

牛乳・乳製品には様々な健康機能があり、今後さらに新たな価値が見つかる可能性を秘めています。そして、お子様からお年寄りまで手軽に摂取できることも利点です。

自然からの恵みであるミルクを私たちがお預かりして、さらに価値を高めてお客様にお届けすること、その価値を伝えることも雪印メグミルクの役割です。新しいアイデアにもどんどんチャレンジして、お客様との対話を通じてご意見も取り入れながら、これからも笑顔あふれる食育活動を展開していきたいと思っています。





消費者重視経営の実践

お客様・消費者の声を傾聴し、
安全で安心していただける商品をお届けします

消費者重視経営 8つの権利と4つの姿勢と7つの取組み

雪印メグミルクグループの「7つ」の取組み

私たち雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた消費者の「8つ」の権利に向き合い、「4つ」の基本姿勢に基づく「7つ」の取組みにより、事業者の責務を果たしていきます。

企業倫理委員会 ▶ P. 52に掲載

- 品質部会(社外視点の工場品質監査)
- 消費者部会(消費者重視経営への意見)
- 表示部会(消費者視点の商品表示確認)

品質保証体制の確立 ▶ P. 22に掲載

- MSQSによる安全で安心していただける商品の提供

危機管理体制の構築 ▶ P. 51に掲載

- 商品告知回収体制の確立と運営
- 日次でのお客様センター入電状況定時報告
- 週次でのリスク連絡会による情報共有化

お客様センター ▶ P. 25に掲載

- 苦情への迅速で適切な対応
- 消費者の声を傾聴
- 「お客様満足向上ミーティング」の開催

お客様モニター ▶ P. 24に掲載

- 消費者の声を傾聴し、消費者視点での相互理解を進める

ホームページ運営

- 消費者への情報開示、経営の透明性
- ネガティブ情報も公正に開示

食育・普及 ▶ P. 23に掲載

- 食の大切さ、乳の大切さを伝える

雪印メグミルクグループの「4つ」の姿勢

安全で安心して
いただける
商品の提供

消費者基本法

消費者の「8つ」の権利

- 1 国民の消費生活における基本的な需要が満たされ、
- 2 その健全な生活環境が確保される中で、
- 3 消費者の安全が確保され、
- 4 商品及び役務について消費者の自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、
- 5 消費者に対し必要な情報及び
- 6 教育の機会が提供され、
- 7 消費者の意見が消費者政策に反映され、
- 8 並びに消費者に被害が生じた場合には適切かつ迅速に救済されること

事業者の「5つ」の責務等

- 1 消費者の安全及び消費者との取引における公正を確保すること。
- 2 消費者に対し必要な情報を明確かつ平易に提供すること。
- 3 消費者との取引に際して、消費者の知識、経験及び財産の状況等に配慮すること。
- 4 消費者との間に生じた苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制の整備等に努め、当該苦情を適切に処理すること。
- 5 国又は地方公共団体が実施する消費者政策に協力すること。

向き合う

消費者への
情報提供、
情報開示

消費者の声を
傾聴し、経営に
反映

危機管理体制の
整備により迅速、
適切に対応

消費者基本法を
根幹とした
消費者重視経営

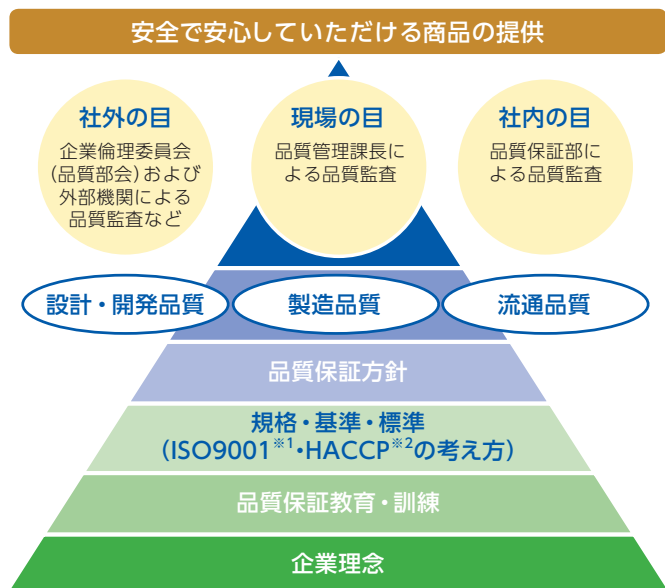
情報開示

- CSR活動報告書
- ホームページ

※条文の内容をわかり易くするために
数字を付け表記

品質保証システム「MSQS」

雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の概念



※1 ISO9001: 組織内で品質保証に取り組むための体制づくりに関する国際規格。

※2 HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point): 原料から製品にいたる一連の工程において発生する危害を調査・分析した結果から、特に重点的に管理する必要がある箇所を常時モニタリングすることで製品の安全性確保を図るもの。

雪印メグミルクは、お客様・消費者の方々へ安全で安心していただける商品を提供していくことはもちろん、お客様・消費者の声を謙虚に聞き、反映することにより消費者重視経営を実践し、信頼していただける品質の実現を目指します。そのために品質保証方針として、以下の4つの項目を定めています。

雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)のもと、お届けする商品の設計・開発から原材料の調達・生産・物流・販売までの過程で品質を管理・保証しています。なお、品質保証システムが適正かつ有効に機能しているかを確認・検証するために、現場、社内、社外の3つの目でチェックを行って、品質保証システムを改善し強化しています。

品質保証方針

- ① 消費者を重視した品質保証体制のもと、法令・社内基準を遵守し、安全で安心していただける商品を提供します。
- ② 適切な情報を提供し、消費者の信頼にお応えします。
- ③ 消費者の声を傾聴して、満足していただける品質を追求します。
- ④ 危機管理体制を整備し、迅速、適切に対応します。

官能評価員の育成とレベルアップに注力しています(海老名工場)

官能評価とは原料や製品を人の感覚器官(味覚・嗅覚・視覚など)によって調べ、評価することであり、製品の安全・安心を守るために非常に重要な技能です。海老名工場では職場ごとに独自の勉強会や官能訓練を実施するなど、官能評価員の育成とさらなるレベルアップに取り組んでおり、官能評価員認定試験^{*}の合格者数が大幅に増えました。

海老名工場の官能評価員認定者割合(人数)^{1級・2級合格者}

2015年度 **38.7%**
(138名) 2016年度 **63.7%**
(244名)



官能評価の様子



官能訓練や官能評価員認定試験時に1級官能認定者の担当者が立ち会い、不正解者へは濃く作成した味見本により味の特徴を理解させるなどのトレーニングを行っています。

※官能評価員認定試験:

雪印メグミルクでは、五味(甘味、塩味、酸味、苦味、うま味)、異常風味、異常臭識別テスト結果から評価員を認定する社内試験を実施しています。



食育活動

雪印メグミルクでは全国6ヶ所に専任スタッフを配置し、多彩なプログラムで皆様の健康づくりのお手伝いをしています。

主な活動は、小中学校への出前授業や各種セミナー・料理講習です。中でも、出前授業や体験型スポーツ食育授業では、牛乳・乳製品の大切さや健康価値を伝えるだけでなく、成長期の子供たちに規則正しい生活習慣とバランスのとれた食事の大切さをお伝えしています。

食とスポーツの融合！体験型スポーツ食育授業

2月、青森県野辺地町立野辺地小学校において、地元の3つの小学校の6年生113名を対象に、長野冬季五輪スキージャンプ団体金メダリストの齋藤浩哉指導によるトレーニングと栄養士による栄養講話を組み合わせた「体験型スポーツ食育授業」を行いました。参加した小学生たちはスキージャンプの練習を体験したり、メダリストの経験談、栄養士の講話を聞いたりして、スポーツの楽しさや規則正しい食生活、生活習慣の大切さを学びました。2016年度はこの他に北海道、東京、名古屋で計6校にて実施しました。



2016年度 食育活動参加者数

約43,000名

夏休み親子体験イベント～酪農から食卓まで～

3月、8月に生産の現場から加工・消費までを一貫して親子で体験できる食育活動として、牧場での乳搾りや仔牛への哺乳体験、酪農家とのふれあい、市乳工場での牛乳やヨーグルトの生産ライン見学、調理体験などを行いました。参加した方々には食べ物を口にするまでの様々な過程を体験することで、命の恵みをいただくことへの感謝の気持ちや牛乳・乳製品の魅力を感じていただいています。

雪印メグミルクの食育活動が「文部科学大臣表彰」を受賞

雪印メグミルクの食育活動「『乳の食育』雪印メグミルク食コミュニティ」の活動成果や地域全体への普及効果が文部科学省に認められ、「平成28年度優れた『早寝早起き朝ごはん』運動の推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞しました。今回の受賞にあたっては、日々の食育活動に加え、ホームページにおいて規則正しい生活習慣の大切さと「早寝早起き朝ごはん」の効果を伝えていることや、雪印メグミルク社内で食生活について話し合う活動を行ったことが総合的に評価されました。

赤ちゃんのすこやかな笑顔のために(雪印ビーンスターフ)

栄養相談会

全国の雪印ビーンスターフ(株)の栄養士が、妊娠中の栄養の摂り方、育児用品のご案内、ミルクの飲ませ方、離乳食の与え方など、お一人おひとりの話をうかがいながらご説明しています。

まめコミ

育児にまつわる「お得!」「便利!」「安心!」をお届けするメンバーズクラブです。インターネットの育児サポートサイトとメールマガジンにより、育児に関する情報提供を中心とするサービスで、お母さんと赤ちゃんが素敵なくらしを楽しめるよう、応援します。



まめコミホームページ
<https://www.mamecomi.jp>



よりよい未来へ

幼稚園生からご年配者まで幅広く食育活動を行っています。
東北でミルクの価値をもっと伝えていきたい。

雪印メグミルク株式会社 東北統括支店 コミュニケーションセンター
菊地 悠(左)、桜井 尚子(右)



工場見学

雪印メグミルクグループの工場では一般見学用のルートを設け、製造時における衛生管理や検査体制といった安全・安心の取組みをはじめとした企業活動の情報発信を積極的に行っています。2016年度は、全国11ヶ所の見学工場に約71,000名のお客様がお越しくださいました。

2016年度 工場見学者数

約 **71,000** 名

阿見工場見学施設リニューアルオープン

プロセスチーズや油脂を製造する阿見工場で、12月、見学コースのリニューアルを行いました。話題のVR(バーチャルリアリティ)技術を活用し、空からの工場視察や、製造ラインの中にいるような感覚を視覚体験できるコーナーを加えるなど、「おいしい・たのしい工場見学」がパワーアップしました。

各工場で独自の工夫を凝らした見学コースをご用意しています。
「見学可能な工場・歴史館」▶

PAGE
62



専用のゴーグルを装着すると、空から見た阿見工場を360°鳥瞰できたり、大量のチーズが鍋に投入される様子が見られるなど臨場感たっぷり。お子様から大人までお楽しみいただけます。

お客様モニター制度

お客様と雪印メグミルクの役職員が対話を行うことで、ともに学び、相互理解を深め、ご意見を企業活動へ活かすための取り組みです。スタートから15年目を迎えた2016年度は、「酪農」「消費者」といったテーマに沿って全9回のモニター会を開催しました。

お客様モニター制度

2002年からスタートして **15** 年目、

これまでに 約 **400** 名が参加

● モニター様からのご意見・ご感想(一例)

- 官能評価テストを体験したが、とても難しく、プロのすごさを実感した。一般の工場見学でも何らかの体験があるといい。
- コップ1杯の牛乳に、多くの牛の存在、酪農家や工場の方々の思いが込められているということに感動した。このような情報発信は、消費者のモラル向上や、商品への愛着形成に効果的だと思う。
- 2つの事件(P.48)のことにまず触れてもらえて、逃げずに向き合っている真摯な姿勢に好感を持った。



牛のお産を見学し、牛乳のうしろにある「命」を実感しました(愛知県・加藤牧場)



工場スタッフとの対話を通じて、相互理解を深めました(海老名工場)



五味(甘味、塩味、酸味、苦味、うま味)の識別による官能評価テストを体験(豊橋工場)



グループ討議は、疑問の解消やご提案をいただく貴重な時間です(関西販売本部)

よりよい未来へ

10年先も時代の変化に柔軟に対応し、製品の品質維持・向上に妥協せず、その一翼を担います。

雪印メグミルク株式会社 なかしべつ工場 製造課
大原 健史



お客様センター

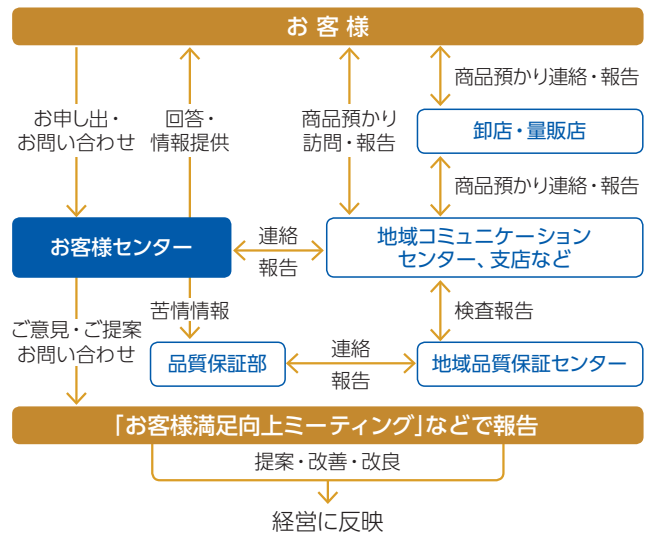
～お客様の声を年中無休で傾聴しています～

雪印メグミルクでは、お客様の声をお受けする「お客様センター」を開設し、年中無休で運営しています。

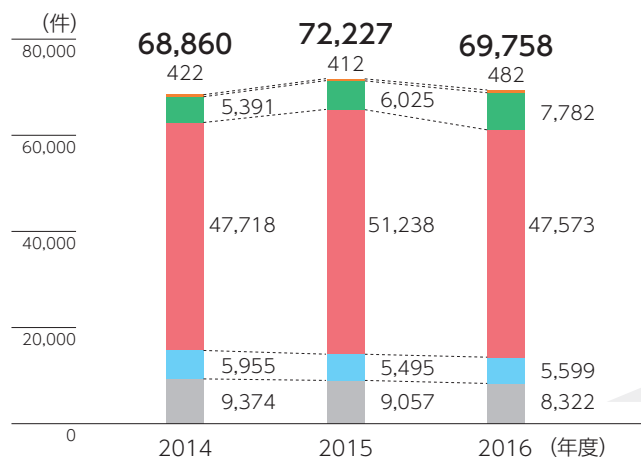
電話・メール・手紙などによるお問い合わせに「正確・迅速・丁寧」に対応していくことを第一に考え、いただいた貴重なご意見を担当部署へ伝達し、より良い商品の提供に役立てています。

商品検査が必要なお申し出をいただいたときは、社内の関係部署と連携して検査を実施し、お客様に迅速な報告を行っています。

お客様センターの対応の流れ

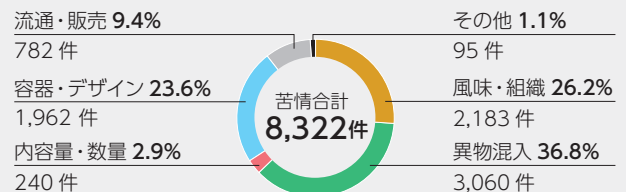


お客様センターの受付件数



- 満足** : お褒め、お礼、激励など
- 興味・関心** : 宅配お申し込み、取扱店紹介、サンプルや資料のご請求など
- 問い合わせ** : 商品の原料、製法、保存方法、利用方法などへのご質問
- 不満・指摘** : 商品・サービスに対する不満点へのご要望
- 苦情** : 商品引取り、訪問、検査などの対応が必要な苦情

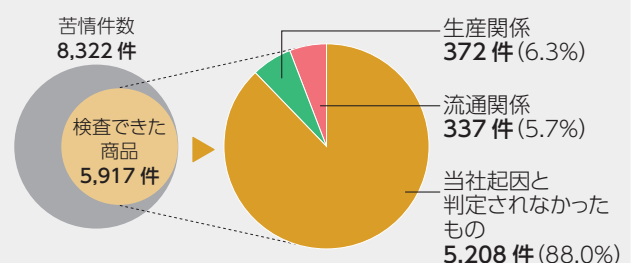
2016年度の受付件数の中での「苦情」の内容



お客様苦情のうち、検査ができた商品の起因別内訳

2016年度の苦情件数8,322件のうち、該当商品の提供をいただいた5,917件について検査を実施しました。検査結果から苦情起因の判定を行い、商品設計や製造工程の改善に役立てています。

なお、2,405件を検査できなかった理由は、「お申し出の時点ですでに廃棄されていた」、「お客様が商品提供を辞退された」などによるものです。



よりよい未来へ

育児休職をとりました。子育ての経験を活かしながら、よりお客様の目線に立った対応や育児相談をしていきます！

雪印メグミルク株式会社 広報IR部 お客様センター
松繁 かな子



● お客様からいただいたお声(一例)

- テレビで「白カビのチーズを食べると良い」と聞いたので、今日初めて御社のカマンベールを食べました。最初は外国産のカマンベールを買っていて、今回初めて買いましたが遜色なくおいしかったです。価格も手頃です。また買いたと思いましたので、電話しました。
- 「牧場の朝ヨーグルト」の発売30周年おめでとうございます。私も今年で30歳になりました。小学生の頃から食べていたヨーグルト。今は夫の朝食に、1歳の息子のおやつに、家族で食べています。パッケージも可愛くて大好きです。

- 私、牛乳好きなんですけど、若いときから飲めないんです。お腹ゴロゴロするんです。お店の方に相談したら、牛乳の棚から「アカディ」っていうのを持って来てくれた。ゴロゴロいわないし、とってもおいしい。こんな嬉しいことは無いと思い、電話しました。
- 「ブルーFe 1日分の鉄分 のむヨーグルト」を半年くらい毎日飲んでいますが、この頃調子がいいんです。味もおいしいし毎朝飲んでます。本当にありがたいです。

お客様満足向上ミーティング

～お客様の声を事業活動に活かしています～

お客様の声を活かした商品の改良・改善を目的として、雪印メグミルクでは「お客様満足向上ミーティング」を毎月開催しています。

お客様から寄せられたご意見・ご要望の中で数の多かった声を中心に、関係部署間の協議を行い、2016年度は改善が決定したものが20件となりました。その結果を受けて改善した事例は、ホームページなどでお知らせしています。

また、本ミーティングの内容は企業倫理委員会と取締役会で報告しています。



事業活動と連動した寄付活動

雪印ビーンスターク(株)では、すべてのお子様と女性の幸せを願って様々な社会貢献活動を展開しています。

ピンクリボン運動

「ビーンスタークママ 赤ちゃんに届くDHA」ご購入代金の一部を、「認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)」に寄付しています。乳がん検診による早期発見の呼びかけなどの活動支援に役立てられています。



おぎゃー献金

「ビーンスタークママ 毎日葉酸+鉄 これ1粒」ご購入代金の一部を、「公益財団法人 日母おぎゃー献金基金」に寄付しています。心と身体に障害をもつ子供たちに思いやりの手をさしのべる愛の運動を支援しています。



乳児院への離乳食寄贈

日本ベビーフード協議会の乳児院寄贈事業に参加し、全国の乳児院22施設に、ベビーフード「素材満菜」シリーズの商品を4,800個寄贈しました。

よりよい未来へ

ママ友に「雪印メグミルク製品で子供を育てたい」と思ってもらえるよう、厳しい目で高品質な製品を守っていききたい。

雪印メグミルク株式会社 京都工場池上製造所 品質管理二課
三木 文佳





酪農生産への貢献

酪農から生まれ、 酪農とともに歩む 雪印メグミルクグループ

雪印メグミルクグループでは、酪農家の皆様が精魂こめて育てた乳牛から搾る生乳を、おいしくて安全で安心していただける牛乳・乳製品に加工して食卓に提供しています。

このため、私たちは「酪農生産への貢献」を使命のひとつに掲げ、様々な取り組みを行っています。

1965年～

(株)雪印こどもの国牧場 (横浜市)

牧場見学や餌やり・乳搾り体験などを通じて「食と命」を感じ取り、酪農への理解を深めていただく活動を担っています。



1977年～

酪農と乳の歴史館(札幌市)

日本初の酪農と乳業に関する歴史館としてオープン。現在に至るまでの歴史を振り返ることで、酪農への理解と関心を深めていただいています。



手回し式バターチャーン



1948年～

日本酪農青年研究連盟 (酪青研)

酪農生産者の実践的研究組織です。雪印メグミルク、雪印種苗(株)、ハケ岳乳業(株)が事務局としてサポートしています。



1976年～

酪農総合研究所

民間唯一の酪農専門研究機関として設立。現在は雪印メグミルクの社内研究所として、調査研究や酪農サポートを実施。毎年シンポジウムを開催しています。



2009年～

酪農諮問委員会

高い見識と豊富な経験を有する酪農生産者、有識者委員からご意見・ご助言をいただいています。



酪農諮問委員会委員一覧 ▶

PAGE
62

雪印種苗株式会社

雪印種苗(株)は、雪印メグミルクグループの「酪農生産への貢献」の一翼を担っています。

雪印種苗(株)は、創業者の黒澤西蔵が提唱した「健土健民」を理想とし、「環境保全型農業」の支援に向けて事業を展開しています。



社是

技術と誠意で農業奉公

事業内容

酪農畜産事業、畑作園芸事業、環境緑化事業

沿革

1941年

酪農家で組織した北海道興農公社(のちの雪印乳業(株))が、牧草を中心とした種苗事業を開始

1950年

過度経済力集中排除法の指定を受け、雪印乳業(株)から種苗部門が分離独立し雪印種苗(株)を設立

1952年

乳牛用配合飼料の製造・販売、野菜・花き種子および果樹苗木の生産販売を開始

1957年

緑化造園事業を開始

1987年

北海道江別市に技術研究所を開設

1998年

北海道農場に植物バイオ研究棟増設

2013年

北海道川上郡標茶町に株式会社TACSしべちゃ設立(共同出資による)(P.29)

日本の農業は、環境問題、農作物の輸入自由化など様々な課題を抱え、新たな局面を迎えています。当社は「お客様第一主義」のもと、いままでに培ってきたノウハウと先進の研究開発をもってお客様をサポートしてまいります。

ゆきたねネット

酪農畜産に関する様々な技術情報をホームページ特設サイト「ゆきたねネット」で公開しています。農家における各種データを一元管理するほか、繁殖管理ソフトなどの便利なソフトも提供しています。



ゆきたねネット
<http://livestock.snowseed.co.jp/>



トータルサポート室

2015年新設の部署で、現在は釧路、札幌、千葉の3拠点において、総勢15名で活動しています。

総合的な技術サポート力を向上させて、顧客の経営改善に貢献していくことを基本方針として、主に酪農家の法人設立支援と草地・飼料作物栽培および飼養管理の技術支援を行っています。

雪印メグミルクの酪農部門と連携し、生乳生産基盤の維持、強化および安定化を目的とした実証圃場、経営実証農家の調査研究も行っています。



トータルサポート室員による牛の状態のチェック風景



草地での勉強会

株式会社TACSしべちゃ



「TACSしべちゃ」で行われた草地更新方法の実演会



Grazing TACS畜舎内部

株式会社TACSしべちゃは、標茶町、JAしべちゃ（標茶町農業協同組合）、雪印種苗（株）が共同出資して設立した酪農法人です。

生乳生産基盤の維持・拡大と自給飼料を中心とした草地型酪農の実践、さらには新規就農を目指す研修生の教育の場として、営農開始から2年が経ちました。

経産牛254頭、育成牛194頭を飼養し（3月現在）、当面の間目標出荷乳量2,400トン（2016年度）には達成し（2,574トン）、順調な営農を行っています。また、2016年度は650人の視察者が訪れており、関心の高さがうかがえます。

2017年には、研修第1期生が既存の牧場を事業承継する方法により就農します。承継時の規模は約80頭で、10年後には100頭規模を目指しています。

3月、ニーズの高い放牧技術と営農計画を学ぶための牧場「Grazing TACS（グレイジングタックス）」を開設しました。経営規模は乳牛60頭、放牧地と採草地の合計で30haの広さで、1年間の営農研修を行います。



「TACSしべちゃ」 ホームページ
<http://tacs-shibecha.com/>

よりよい未来へ

指導を受けている先輩を超え、確かな専門知識・発信力で酪農家さんから信頼される技術者になります。

雪印種苗株式会社 トータルサポート室
近藤 孝之



グループで連携した酪農貢献への取り組み

実証圃場※、経営実証農家における調査研究

雪印メグミルクの酪農部門を中心に、雪印種苗(株)や地域農協などの指導機関が連携し、「実証圃場」および「経営実証農家」の調査研究を実施しています。

実証圃場では草地管理や植生改善を目的として、これまでに延べ78圃場で取り組みを行ってきました。経営実証農家では、自給飼料利活用による効果の検証、分析・診断による酪農経営の改善、成果の地域普及による生産現場

への貢献を目的に、1牧場あたり5年間、これまでに4牧場で実施しました。

※酪農における圃場(ほじょう)とは、牧草や飼料用作物を栽培する農地のこと。

実証圃場

2008年にスタートして 延べ **78** 圃場で実施

CLOSE-UP

経営実証農家「イワタファーム(北海道・興部町)」での成果

牧草や飼料用作物の収穫量の増加、サイレージ(乳酸発酵した牧草)の品質向上、乳量の増加を通じて経営が改善しました。また、この取り組みがきっかけとなり、管内農協において「植生改善計画会議」が設置され、岩田様ご本人も管内の研修会での講演や自牧場内での研修会実施などにより、成果の普及に尽力されています。



イワタファームでの検討会の様子



イワタファームでの圃場調査の様子



有限会社イワタファーム
取締役

岩田 秀一 様

5年間の経営実証農家を終えて、何をやったかと言ってしまうのは難しいですが、いろんな取り組みをやったことにより結果が出たことで、皆様に恩返しが出来たと思います。教わったことで最も重要なポイントは、牧草で搾りたいという思いを経営に結び付ける所、その経営感覚です。これからも牧草で搾っていきたい。そしてまた5年後、皆様に新しい牧草地や、よい経営をお見せして、お礼をしたい。本当に誠に楽しい5年間でした。感謝の言葉しかありません。

日本酪農研究会を開催

日本酪農青年研究連盟(酪青研)が年に1度開催している日本酪農研究会は、11月に第68回大会が神戸市にて行われ、320名を超える全国の会員および酪農関係者が参集しました。多様な酪農経営から多くの学びを得るとともに、全国の盟友との絆を深める場となりました。

経営内容や成果の発表(7名)があり、最優秀賞受賞者には黒澤賞および農林水産大臣賞などが贈られました。また、事例やメッセージの発表(5名)や講演会などが行われました。



よりよい未来へ

10年後の目標として、会社で酪農部署を設立し酪農経営に携わった仕事をしたいと考えます。

ハケ岳乳業株式会社 営業部 量販支店
竹内 雅春



乳（ミルク）にこだわる

ミルクの力で 健康で幸せあふれる生活を

雪印メグミルクの研究開発部門は1933年設置以来、ミルクの可能性を引き出し、ミルクの新たな価値を創造してきました。これからも、ミルクの持つ無限の可能性を深め、価値を高め、世界に拡げていきます。

乳にこだわる研究の歴史

● 雪印グループ企業の歩み ● 研究所の歩み ● 研究成果・応用商品 ● 受賞歴（2000年以降）

～1950年	1960年	1970年	1980年	1990年
1925 ● 有限責任北海道製酪販売組合設立 1933 ● 研究部門新設 1937 ● 酪農科学研究所発足 (札幌研究所の母体)	1950 ● 雪印乳業株式会社設立 1954 ● 酪農科学研究所東京分室 設置(品川)(ミルクサイ エンス研究所の母体)	1972 ● 全国農協直販株式会社設立 1979 ● チーズ研究所設立	1979 ● 特殊ミルク「フェニルアラ ニン除去ミルク」「ロイシ ン・イソロイシン・パリン 除去ミルク」製造認可を 受ける 1980 ● 「stringチーズ」 (現「さけるチーズ」) 独自量産技術により 生産開始	1979 ● 札幌研究所に改称 1982 ● 生物科学研究所設立 1983 ● 乳塩基性タンパク質 (現MBP®)開発 1995 ● 独自装置による 切れ目の入ったバター 「北海道バター(10gに 切れてる)」生産開始 1996 ● ジャパンミルクネット 株式会社設立 1997 ● 特定保健用食品「雪印 ナチュレ」(現「ナチュレ 恵 megumi」)発売



1937年 酪農科学研究所



1950年 雪印乳業本社



1979年 チーズ研究所



1980年「stringチーズ」
(現「さけるチーズ」)



1983年 生物科学研究所
※ 2001年開所

研究開発体制

ミルクサイエンス研究所、札幌研究所、チーズ研究所は、雪印メグミルクにおける研究開発の中心的な担い手として、乳酸菌やミルクの成分の健康機能、牛乳・乳製品の風味や食感、チーズ・バター・粉乳など乳製品の加工技術、容器包装などに関する研究や、ナチュラルチーズの製造技術の伝承など、多岐にわたる分野を研究しています。

ミルクサイエンス研究所



チーズ研究所



札幌研究所

主な機能性研究

乳酸菌やミルクの成分が持つ健康やおいしさに関する研究成果を、特定保健用食品や機能性表示食品をはじめとした様々な商品に反映しています。



ガセリ菌SP株

乳酸菌の健康機能を見出し、商品に新たな価値を付与する研究に取り組んでいます。

その代表である当社独自の乳酸菌「ガセリ菌SP株」には、内臓脂肪を減らす機能があることが科学的に確認されています。



MBP®

乳の成分と機能の研究に取り組んでいます。

その代表であるMBP®は、牛乳や母乳に含まれる微量タンパク質です。当社の研究の結果、骨の生まれ変わりに役立つ成分であることを解明し、MBP®と命名しました。



芳醇ゴーダ

雪印メグミルクが保有する数多くの乳酸菌の中から、チーズの熟成中に芳醇な風味を醸し出すヘルペティカス菌を発見しました。この乳酸菌が生み出す酵素により、コクとうまみに関係するアミノ酸を多く含む「芳醇ゴーダ」を開発しました。

2000年

2001 ● 「毎日骨太 MBP®」他、MBP®関連商品発売

2002 ● 特定保健用食品「毎日骨太 MBP®」発売

2002 ● 「切れてるチーズ」三層以上の多層チーズを効率的に製造する技術を応用し、生産開始

2004 ● 「芳醇ゴーダ」を使用した「コクとうまみのひとくちチーズ」(現「雪印北海道100 芳醇ゴーダ クラッシュ」)発売

2003 ≡ 「社団法人農林水産先端技術産業振興センター会長賞」受賞
[功績名] 骨強化機能を有する乳塩基性タンパク質MBP®の発見とMBP®応用新商品の開発



2002年「毎日骨太 MBP®」



2004年「コクとうまみのひとくちチーズ」
(現「雪印北海道100 芳醇ゴーダ クラッシュ」)

2010年～

2009 ● 雪印メグミルク株式会社設立

2011 ● ミルクサイエンス研究所に改称

2013 ● 特殊ミルクを製造する新医薬品工場建設
(ミルクサイエンス研究所内)

2010 ● 新しい充填技術による多層デザート「重ねドルチェ」シリーズ生産開始

2015 ● 機能性表示食品「恵 megumi ガセリ菌SP株ヨーグルト」発売

2007 ≡ 「雪印北海道100 芳醇ゴーダ クラッシュ」日本食糧新聞社「新技術・食品開発賞」受賞

2009 ≡ 「ガセリ菌SP株」使用商品群日本食糧新聞社「新技術・食品開発賞」受賞

2011 ≡ 「重ねドルチェ」シリーズ日本食糧新聞社「新技術・食品開発賞」受賞



2010年「重ねドルチェ」シリーズ



2015年「恵 megumi ガセリ菌SP株ヨーグルト」

ミルクの機能性研究と商品開発

～お客様の健康のために～

乳酸菌やチーズなど乳に関わる機能の研究成果

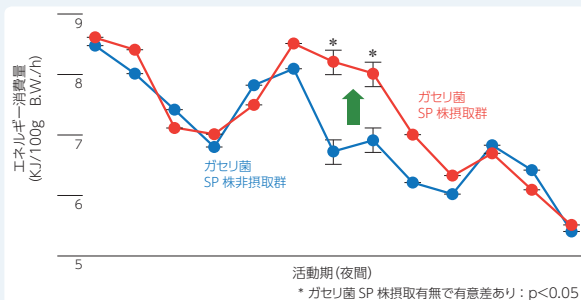
研究活動を通じて得られた健康機能に関する知見について、学会や学術雑誌で発表しています。

1 「ガセリ菌SP株」に関する研究

① エネルギー消費量増加作用

〈第70回 日本栄養・食糧学会大会において発表〉

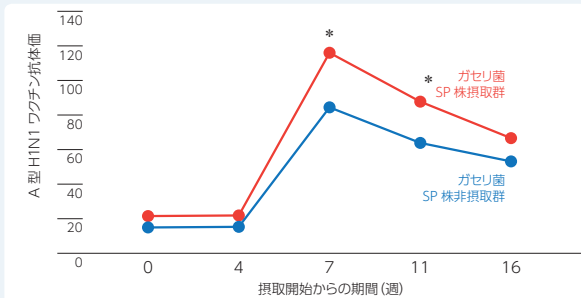
ラットを対象とした試験において、「ガセリ菌SP株」には、炭水化物の消費促進によるエネルギー消費量増加作用がある可能性が示唆されました。



2016年研究発表「*Lactobacillus gasseri* SBT2055 摂取がラットのエネルギー代謝および糖代謝に及ぼす影響」より

③ インフルエンザウイルスに対する防御機能の向上効果 〈学術雑誌“Functional Foods in Health and Disease”に掲載〉

ヒトを対象としたインフルエンザウイルスに対する試験から、「ガセリ菌SP株」の摂取は、獲得免疫系(ワクチンによる抗体価の上昇)と自然免疫系(NK細胞の活性化)の両方を増強することで生体防御機能を高める可能性があることが示唆されました。

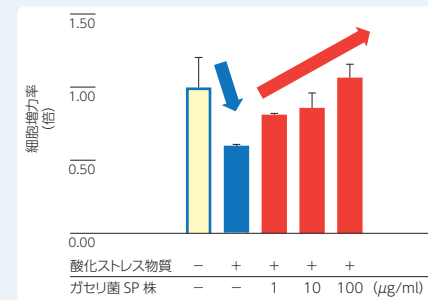


2016年研究論文「*Lactobacillus gasseri* SBT2055 stimulates immunoglobulin production and innate immunity after influenza vaccination in healthy adult volunteers」より

② 寿命延長効果の作用メカニズム

〈第39回 日本基礎老化学会、第20回 腸内細菌学会において発表〉

「ガセリ菌SP株」は線虫*の酸化ストレスに対する抵抗性を向上させることがわかり、寿命延長効果の可能性が



ることがわかりました。

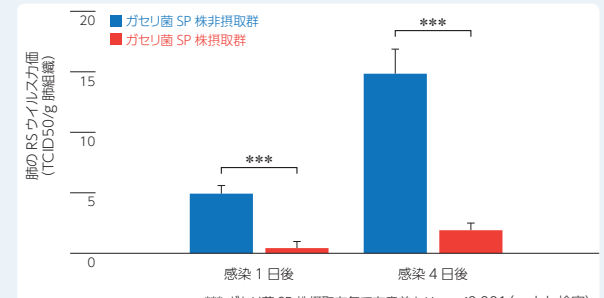
*線虫:
体長約1mmの寿命研究に用いられる動物

2016年研究発表「*Caenorhabditis elegans*の寿命延長効果を示す*Lactobacillus gasseri* SBT2055の作用メカニズム」より

④ RSウイルス増殖抑制効果

〈日本農芸化学会2017年度大会において発表〉

マウスを対象とした試験において、「ガセリ菌SP株」が乳児期の肺炎や細気管支炎などを引き起こすウイルスとして知られているRSウイルスに対する感染防御効果を有する可能性が示唆されました。



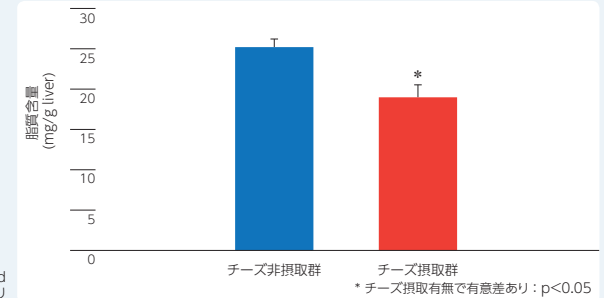
2017年研究発表「乳酸菌*Lactobacillus gasseri* SBT2055 の RS ウイルス増殖抑制効果」より

2 チーズの健康効果の研究

チーズの摂取による肝臓への脂肪蓄積抑制について
〈学術雑誌“Daily Science & Technology”に掲載〉

ラットを対象とした試験において、高脂肪食摂取による脂質代謝の状態悪化がチーズの摂取により改善される可能性があることがわかりました。

2016年研究論文「Cheese consumption prevents fat accumulation in the liver and improves serum lipid parameters in rats fed a high-fat diet」より



よりよい未来へ

「法令遵守」「科学的根拠に基づく表示」の商品づくりを愚直に継続し、お客様に「信用できる」と言われる会社でありたい。

雪印メグミルク株式会社 研究開発部
平松 和彦



新しい特定保健用食品

昨年は機能性表示食品を発売し、ご好評いただいておりますが、今年は2品の特定保健用食品を発売しました。

「毎日骨太 スキム」

コップ1杯で1日分の1/2のカルシウムが効率的に摂取できるトクホのスキムミルクです。

許可表示:

この食品はカルシウムを豊富に含みます。
日頃の運動と適切な量のカルシウムを含む健康的な食事は、若い女性が健全な骨の健康を維持し、歳をとってからの骨粗鬆症になるリスクを低減するかもしれません。



「毎日骨ケア MBP® ライチ風味」

牛乳中に微量に含まれ、骨密度を高める働きのある機能性成分MBP®が手軽に摂れる、爽やかなライチ風味の清涼飲料です。

骨の健康が気になる方に、特におすすめです。

許可表示:

本品は、骨密度を高める働きのあるMBP®(乳塩基性タンパク質)を含んでおり、骨の健康が気になる方に適した飲料です。



先天性代謝異常症治療用特殊ミルクの開発と供給

特殊ミルクは、生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が十分にできない方のために使用される粉ミルクです。

赤ちゃんは生まれてすぐに血液検査を受けます。フェニルケトン尿症などの代謝異常が発見されると、疾患に応じて、医師の指示のもと特殊ミルクが与えられます。特殊ミルクは、通常のミルクや食事と合わせて使用し、症状改善のために食事療法として使用されます。

雪印メグミルクでは、こうした方の治療のために、約50年前に、特殊ミルクを国内で初めて開発し、これまで継続して製造・供給しています。特殊ミルクの供給は、当社が果たしていくべき社会的責任として認識し、今後も品質の確保と安定供給に努力してまいります。



製造・供給している特殊ミルク品目

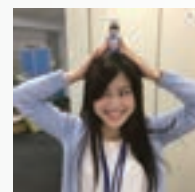
品目	対象疾患	
医薬品 (2品目)	Phe 除去ミルク配合散「雪印」	フェニルケトン尿症
	Leu,Ile,Val 除去ミルク配合散「雪印」	メープルシロップ尿症
登録 特殊ミルク (6品目)*	Phe 無添加総合アミノ酸粉末	フェニルケトン尿症
	Met 除去粉乳	ホモシスチン尿症
	Phe,Tyr 除去粉乳	高チロシン血症
	蛋白除去粉乳	高アンモニア血症
	Ile,Val,Met,Thr,Gly 除去粉乳	メチルマロン酸血症 プロピオン酸血症
	Lys,Trp 除去粉乳	グルタル酸血症1型
		たんぱく・アミノ酸代謝異常 有機酸代謝異常

※登録特殊ミルク:
「社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 総合母子保健センター 特殊ミルク事務局」の指示により製造、供給

よりよい未来へ

多種多様なメンバーが生み出す連携プレーで、老若男女問わず「誰もが知ってる『MBP®』」に成長させます!

雪印メグミルク株式会社 機能性食品事業部
久米 小百合



▶ 海老名工場に設置されている8台の外灯は、太陽光と風力によるハイブリッド発電で、外灯として必要な電力をすべてまかっています。

環境への取り組み

持続可能(サステナブル)な地球環境への貢献

雪印メグミルクは、環境保全活動をする上で「生物多様性^{*}」という考え方を重視しています。私たち乳業メーカーは、牛や牧草はもちろん、酪農に適した気候や豊かな自然があってはじめて成り立つ事業であることから、従業員一人ひとりが、環境に配慮した事業活動を心がけています。これからも、ISO14001をはじめ、ISO26000、GRIガイドライン、SDGsなどの考え方も取り入れながら、持続可能(サステナブル)な地球環境に貢献していきます。

^{*}様々な生物が複雑に関わり合って存在している生態系を守る、という概念

雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷低減を図ります。そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生に努めます。

1. 法令の遵守

環境法令・条例などを遵守し、法改正などに迅速に対応します。

2. 環境への配慮

省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

3. 環境意識の向上

一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

4. 環境情報の開示

環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

環境マネジメント体制図

環境最高責任者：代表取締役社長

- ①環境方針の制定および見直し
- ②環境担当役員の任命
- ③マネジメントレビュー(経営層による見直し)の実施
- ④全社環境会議[※]の開催

環境統括責任者：環境担当役員

- ①EMSの総合管理
- ②環境最高責任者への情報提供
- ③全社環境目的・目標の承認
- ④全社環境会議の運営 など

全社EMS事務局長 (CSR部長)

- ①事務局業務の統括
- ②環境統括責任者の補佐 など

全社EMS事務局 (CSR部 環境グループ)

- ①EMSに関する管理、運用、外部環境審査対応
- ②内部環境監査対応

全社環境会議

- 管理部門
- 研究部門
- 生産部門
- 営業部門
- 物流部門
- 関連会社

[※] 全社環境会議：全社環境目標の協議と進捗管理を行うとともに必要な措置の決定を行い、EMSが適切で効果的に機能していることを確認する会議。

「ISO14001:2015年版」改正にいち早く対応しました

雪印メグミルクは、事業活動が環境に及ぼす負荷を少なくするために環境保全に積極的に取り組んでいますが、その成果を内外に客観的に示すため、環境に関する国際標準規格であるISO14001を認証取得しています。

2015年9月にはISO14001規格が11年振りに改正さ



10月に実施された審査の様子(左:本社 右:海老名工場)



れ、同年12月に日本語化されJIS-Q14001として発行されました。2015年版規格では「リスクと機会」、「環境保全と事業活動の一体化」、「活動の具体的成果の要求」など、新たな考え方も導入され、仕組みを大幅に改正する必要がありましたが、雪印メグミルクはこれにいち早く対応し、4月より新EMSの運用を開始しました。

その結果、11月には全社(グループ会社2社を含む70場所、5,000名規模)で認証を更新取得することができました。

2016年内に全社規模で新規格の認証を取得した例は少なく、全社一丸となり業界に先駆けた対応をとることができました。

環境法令の遵守

雪印メグミルクは、環境法令や地域条例を確実に守るため、様々な工夫を行っています。

e-ラーニングによる法令担当者教育、社内イントラネットによる法令・条例の周知徹底、全事業所に年1回以上義務化している定期法令遵守評価、「環境Q&A」による事例紹介などです。

このうち、工場・研究所・物流拠点では、万一の環境トラブルに備え、定期的なメンテナンス・点検の義務化や緊急事態を想定した教育・訓練を実施しています。



水を使った「生乳流出時」の対応訓練(梶延工場)

環境監査体制

環境監査には審査機関による外部審査と社内で行う内部監査があり、EMSの運用状況や法令遵守の状況を総合的に確認しています。

雪印メグミルクの内部環境監査は、現場に近い監査員が行う第一者監査と、クロスチェックとして他事業所の監査員を派遣して行う第三者監査の2種類を組み合わせ実施しています。第一者監査では業務を良く知る監査員

による業務改善効果が、第三者監査では客観的な立場からの法令チェックや課題抽出に大きな効果が出ています。



内部環境監査(大樹工場)



環境教育

雪印メグミルクでは、e-ラーニングのほか、全社EMS事務局が主催する内部環境監査員養成研修、部署毎に実施する個別教育など、各種の環境教育制度があり環境意識の向上を図っています。

教育は対象となるすべての人に実施することが重要です。階層別e-ラーニングのうち、一般教育コースでは役員から契約社員まで全従業員に受講を義務付け、毎年100%の受講率を達成しています。

環境保全活動への取組みと支援

雪印メグミルクグループは、製品ライフサイクルの各工程で多くの天然資源、エネルギーを使用していますが、その一連の工程で発生する資源のロスや環境負荷を出来るだけ小さくするため、各部門で様々な取組みを行っています。

省エネ活動や廃棄物の削減は全社で行っている代表的な活動ですが、研究開発部門では環境に配慮した商品設計を、調達部門ではプラスチック容器の薄肉化や環

境に配慮した容器への変更などを、工場ではエネルギーの効率化や排水の浄化処理などを行っています。また、物流部門では原材料や商品の輸送でモーダルシフトや積載率の向上などを、支店では全営業車でエコドライブの取組みなどを、管理部門ではクール・ビズやウォーム・ビズによる冷暖房の抑制やペーパーレス化を進めています。

紙容器飲料への森林認証紙の使用

森林認証制度とは、審査機関が適切な森林管理が行われている森林および流通・加工業者を審査・認証し、独自のマークを付けて持続可能な森林経営を支援するための取組みです。雪印メグミルクは、森林認証紙であるFSC®認証紙を一部商品に採用しています。



カーボンオフセットの取組み、「生物多様性さっぽろ応援宣言企業」への登録



カーボンオフセット
証書

カーボンオフセットとは、植林などの森林保護やクリーンエネルギー事業で得られたCO₂の排出権(クレジット)を購入することにより、企業活動で排出されたCO₂の一部を間接的に削減する制度です。雪印メグミルクでは、「北海道森と大地のカーボンクレジット」の排出権を購入し、創業の地である北海道の環境保全に貢献しています。購入した排出権は「酪農と乳の歴史館」の使用電力から出るCO₂の削減に充てています。

また、生物多様性の考え方を基に、事業活動全体で環境保全活動を推進するための一環として、雪印メグミルクは2016年2月に札幌市の「生物多様性さっぽろ応援宣言企業」に登録しました。



生物多様性さっぽろ
応援宣言企業登録証

日本政策投資銀行(DBJ)から環境格付を取得

DBJの「環境格付」とは、DBJが開発した格付システムにより、企業の環境経営度を評点化しランク付けを行う独自の制度で、格付により融資条件が設定される世界で初めての融資メニューを開発しました。



雪印メグミルクは3月にこの環境格付を取得しました。

環境イベント・キャンペーンなどへの積極的な参加

雪印メグミルクでは、環境イベントやキャンペーンにも積極的に参加しています。

一例として、夏至〜七夕(クールアース・デー)の期間に環境省が主催する「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」において、今年も屋外広告の一斉消灯や従業員の一斉退社などを実施しました。

また、6月の「エコライフ・フェア(代々木公園)」や12月の「エコプロ(東京ビッグサイト)」には全国牛乳容器環境協議会(容環協)の一員として、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(全国パック連)と協働し、牛乳パックの手開き体験や手すきはぎづくり体験、ワークショップなどを通じてたくさんの方々に牛乳パックリサイクルの大切さと再生紙利用の重要性について啓発しました。



エコプロ2016

よりよい未来へ

顧客のニーズが多様化している中でも現在と変わらず
安心・安全な飼料を酪農畜産農家にお届けしたい。

道東飼料株式会社 品質保証室
今田 裕之



CO₂排出量削減の取組み(磯分内工場)

磯分内工場では、ボイラーの燃料を重油からCO₂排出量が少ない液化天然ガスへ変更しました。さらに、高効率な新型ボイラーを導入したことで、より多くのCO₂排出量の削減を行いました。

また、濃縮機も高効率なものに変更し、省エネとCO₂排出量削減を図りました。結果として、工場全体で約25%のCO₂排出量削減ができました。



新型炉筒煙管ボイラー



液化天然ガス貯蔵タンク

環境にやさしい工場づくり(いばらく乳業)



最新型アイスビルダー

いばらく乳業(株)では、最新型の冷凍機とアイスビルダー(冷熱蓄熱装置)を導入しました。夜間電力を使用して氷を蓄え、昼間の製造時に負荷に応じた自動

制御による冷却を行うことで、省エネと電力のピークカットを実現しました。また、水冷エアーコンプレッサー用のクーリングタワー(熱交換器)を密閉式の超低騒音型とすることで、工場周辺の騒音発生を防いでいます。



超低騒音型クーリングタワー

省エネの取組み(野田工場)

野田工場の冷蔵庫はデポ(物流拠点)機能も有しているため、24時間、365日連続点灯となっていました。

今回、高天井用人感センサー付きのLED器具を他社に先駆けて採用し、個別の照明器具ごとに全点灯から減光点灯へ自動切換を行うことで、従来比70%以上の省エネ

を行うことができました。



高天井用人感センサー付きLED照明

地域貢献の取組み(京都工場池上製造所)

雪印メグミルクでは、全国の事業所で清掃活動など様々な地域貢献活動を行っています。池上製造所では、毎年秋に、地域貢献活動の一環として工場周辺のゴミ拾い、草取りなどの清掃活動を行っています。工場周辺は田園地帯であるため、工場からの排水処理水を放流している用水路の清掃も行っています。地域の方々には喜んでいただいております。今後も続けていきたいと考えています。



用水路の清掃風景



清掃後の用水路

よりよい未来へ

日々、精進し、10年後には職場内外を問わず人と人を繋ぐ架け橋のような存在になりたい。

いばらく乳業株式会社 営業部物流課
大森 一貴



地球温暖化防止と循環型社会への取組み

事業活動と
環境影響

生産



物流

INPUT (事業活動に使用する資源・エネルギー)



原材料

生乳	1,006,000t
油脂	19,700t
乳由来原料	41,500t
その他原料	54,300t



包装材料

紙パック・その他紙・ プラスチック・ガラス・ アルミほか	65,700t
------------------------------------	---------



ユーティリティ

電力	236百万kWh
燃料 (原油換算)	54,800kl
用水	11,500千m ³

容器包装における取組み

2016年度は、マーガリン(大容量)のフタ(約20%軽量化)、および牛乳びんの樹脂キャップ(約24%軽量化)などの容器包装軽量化に取り組み、合計で年間約180t^{*1}の軽量化につながりました。

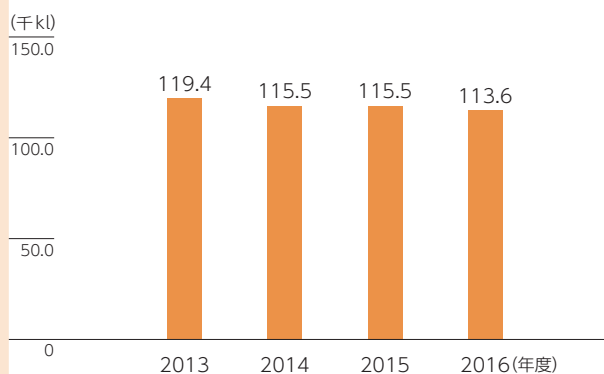
また、大容量ヨーグルト商品(400g)に使用するクレート^{*2}の形状を変更し、積み重ねた時の容積を減らすことで、保管スペースの削減、輸送時の積載率向上を実現しました。



※1 2016年度販売実績から算出した見込み値

※2 商品の流通過程で使用する小型のコンテナ容器

エネルギー使用量(原油換算)



モーダルシフトへの取組み～エコレールマーク[※]の商品認定～

モーダルシフトとは、貨物輸送を自動車から鉄道・船舶へと切り替えることでCO₂排出量を削減し、環境負荷を削減する手法です。雪印メグミルクは、北海道の工場で製造した商品の北海道外への輸送についてモーダルシフトを積極的に進めており、2007年9月より継続してエコレールマーク取組企業の認定を受けていま

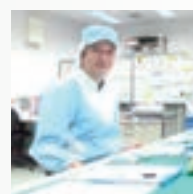
す。特に練乳類については道外販売分の100%が鉄道輸送であり、3月の第34回「エコレールマーク運営・審査委員会」では、練乳など9品目が新たにエコレールマーク商品認定を受けました。



※ 国土交通省が商品の輸送時に貨物鉄道を一定割合以上利用している場合に認定するマーク。企業の環境への取組みを示す。

よりよい未来へ

雪印メグミルク株式会社 福岡工場 製造一課
山田 勝也



乳の価値を高めるべく、3R活動に加え、エネルギーの見える化推進で循環型社会の構築に貢献していきます。



商品



OUTPUT (事業活動に伴い発生する排出物)



排水

排水	10,500千m ³
BOD	147t
COD	149t
全リン	24t
全窒素	53t

工場から出る排水は、微生物によって処理されたきれいな状態で排出しています。



廃棄物

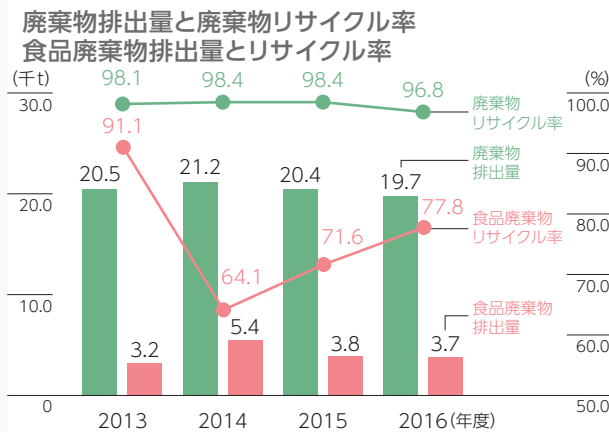
廃棄物	19,700t
(うちリサイクル)	19,100t)

廃棄物の約97%はリサイクルして、再資源として有効活用しています。

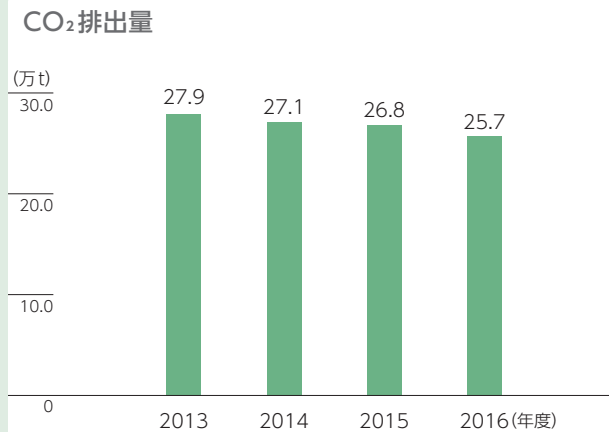


CO₂

工場・研究所・本社・支店由来	257,000t
物流由来	115,000t



食品廃棄物リサイクル率は、2013～2014年度の工場移転に伴う処理委託業者の変更による下降があったものの、再び回復しています。



東京都、埼玉県CO₂総量削減義務条例によるCO₂超過削減量(クレジット)を含む。

排出者責任の考え方に基づく排出物の処理

雪印メグミルクは、排出者責任の考え方に基づき、排出物は可能な限り埋め立てや焼却をせず、リサイクルを推進しています。また、直接契約している処理業者の現場視察に加え、焼却埋め立ての場合は最終処分場まで視察を行っています。



最終処分場の視察

燃料転換によるCO₂排出量の大幅削減

燃料を重油から液化天然ガス(LNG)に転換すると、CO₂が約2割削減されます。これまで北海道の一部を除くほとんどの工場に対応済みでしたが、2015年に釧路LNG基地が完成したことから、2016年にかけて別海工場や磯分内工場(P.38)でもガス化を実施しました。

よりよい未来へ

緑の下の力持ちとなり、数字の面から会社の発展を支えられるよう、日々勉強を重ねていきます！

株式会社エスアイシステム 経営企画本部 経理部 経理課
松川 実樹



▶ 雪印メグミルクスキー部の創部70周年ファン感謝イベントで、ジャンパーを模した氷のオブジェを囲んで、ファンの皆様と選手が交流しました。

社会の皆様とともに

社会との信頼関係を構築し、 地域に資する活動を

雪印メグミルクグループは社会の一員として、事業活動を通じて社会とよりよい適合を図っています。

北海道地域での活動

北海道包括連携協定

雪印メグミルク、雪印種苗(株)、(株)雪印パーラーは、北海道と包括連携協定を締結し、乳製品製造で培った技術を活かして、ともに北海道の経済活性化に取り組んできました(2007年締結)。

具体的な取組み事項

- ・「酪農」の振興に関する事項
- ・「食」の安全・安心、産消協働*に関する事項
- ・子育てや健康づくりに関する事項
- ・北海道の魅力ある「観光」の振興に関する事項 など

*地域の消費者と生産者が連携し、地元の資源や生産物を地元で消費・活用することにより、域内循環(人、もの、お金の流れ)を高めて地域経済の活性化を図る運動。

赤れんが庁舎前庭での花壇設置(雪印種苗)

「北海道庁赤れんが庁舎」は、北海道を代表する観光スポットです。雪印種苗(株)が中心となって毎年、市内の幼稚園児とともに苗の植え込み作業を実施し、北海道らしさをイメージした花壇を赤れんが庁舎前庭に造成しています。



北海道庁赤れんが庁舎の花壇



園児たちの作業風景

教育事業への参画や協賛

雪印メグミルクは、道内小学校での食育授業や、農業高校やチーズ工房でのナチュラルチーズ製造研修を実施しました。また、北海道農政部の所管事業である「ホッカイドウ競馬」振興をはじめ、協賛活動も積極的に行っています。



講師を派遣し、2016年は大野農業高校、中標津農業高校でチーズ製造に関する特別授業を実施。他に、チーズ工房を対象として自社施設の提供と特別講習を実施しました。

北海道HACCP認証取得

雪印メグミルク(大樹工場、なかしべつ工場、興部工場)は、「北海道HACCP 自主衛生管理認証制度」の認証取得・更新により、道産食品としての安全性確保と信頼性向上を図るとともに、制度の普及に努めています。なお、(株)雪印パーラーでも、HACCPに基づいた衛生管理を導入しています。



北海道総合政策部知事室
広報広聴課 広報担当課長
篠原 結城子様

2007年10月、雪印メグミルクグループ様と包括連携協定を締結して以来、「酪農」や「食」のみならず、「子育て」や「観光」など広範囲にわたる活動を進め、今年で10年目を迎えます。

毎年、赤れんが庁舎前庭に設置し

ていただく花壇は、多くの観光客の皆様に、記念撮影スポットとして大変愛されています。特に昨年は新しい北海道のキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」の看板を設置していただき、道内外へのPRに大いにつながりました。

これからも、“その先の、道へ。”へ向かって、お互いのもつ資源やノウハウを活かし、さらに連携を深めながら、協働して取り組んでいけるよう、ご協力お願いいたします。

さっぽろまちづくりパートナー協定

2012年に、「健やかな子どもの成長のためのまちづくり」に取り組むパートナーとして、札幌市と雪印メグミルクは、「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しました。協定の柱「さぽーとほっと基金」への協力として、2016年も「酪農と乳の歴史館」の入館者「1人につき10円」を寄付し、札幌市の板垣副市長より感謝状が贈られました。



地域の方々とのふれあい

クリスマスイベントを通じて地域社会とのきずなを深めています(磯分内工場)



工場の壁面をいろどるイルミネーション

12月、磯分内工場では工場で生産した生クリームを使って地元のケーキ屋さんによっていただいたケーキを、サンタに扮した工場

長が近隣の保育園と小学校に無償で配布しました。また、クリスマスケーキ教室への生クリームを無償提供したり、工場壁面を使用したクリスマスツリーを模したLEDイルミネーションを飾り、近隣住民と点灯式を行うなど、地域とのふれあいを深める活動を行いました。

職業実習体験(インターンシップ)による学生就職支援を行っています(豊橋工場、大樹工場、いばらく乳業)

豊橋工場、大樹工場、いばらく乳業(株)では、地元の高校生の今後の進路を考えるきっかけ作り、社会人としての

マナー習得を目的として、数日間、原料受け入れや製造の実習を体験していただきました。

スポーツ貢献

[illegible]

1949 北海道選手権大会リレー



菊池定夫のジャンプ

スキ一部
70周年
2016

2000

2014 伊東大貴・清水礼留飛〈ソチ五輪〉
国別団体ラージヒルで銅メダル獲得

1998 原田雅彦・岡部孝信・齋藤浩哉〈長野五輪〉国別団体ラージヒルで金メダル獲得
原田雅彦〈長野五輪〉個人ラージヒルで銅メダル獲得

1994 原田雅彦・西方仁也・岡部孝信(当時:拓銀)
〈リッパンメル五輪〉国別団体ラージヒルで銀メダル獲得

1990

1980

1972 青地清二〈札幌五輪〉70m級ジャンプで銅メダル獲得

1970

1960

スキ一部
創部

1946

1956 落合力松〈宮様大会〉5連覇

1958〈第一回 雪印杯全日本ジャンプ大会〉開催

1962 菊池定夫13戦12勝(全日本2冠含む)の大偉業達成



伊東大貴のジャンプ



2014 ソチ五輪

雪印メグミルクスキー部は、2016年に創立70周年を迎えました。
これを記念して、改めてその歴史を振り返るとともに、これまでの
応援に感謝し、各種企画を開催しました。
これからも雪印メグミルクは、スキージャンプをはじめとするスポー
ツの振興を通じて、社会に貢献してまいります。

名を派遣しました。スキージャンプを初めて見た者も多く、その迫力と雪印メグミルク所属選手の活躍に大歓声が上がりました。

ファンとの交流



9月には、都内ホテルにて「創部70周年ファン感謝イベント」を開催。スキー部(選手、監督、コーチ)と、一般公募で招待した約70名のファンの皆様、約30名の従業員との対話による交流を行いました。

会場では、70周年記念ムービーの上映、選手たちとの記念撮影のほか、雪印メグミルク商品を使用したメニューをはじめとする料理を囲み、会話が弾みました。

ファンの皆様に直接感謝の気持ちを伝え、激励の言葉をいただくことが選手たちの大きな励みになりました。また、ファンの皆様の幸せそうな様子に、従業員たちも雪印メグミルクグループに帰属していることの誇りを感じ、これからのCSRへの志を新たにする機会ともなりました。

社内応援団の派遣



従業員有志による応援団を結成し、「全日本スキー選手権大会」(11月、長野県白馬村)へ約80名、「雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会」(1月、札幌)へ約30

雪印メグミルク杯

「雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会」は、冬の風物詩として1958年にスタートしました。女子組、ジュニア組、少年組、成年組と、幅広いジャンパーが参加し、本大会で好成績を収め世界に羽ばたいていく選手も多く、「若手ジャンパーの登竜門」として重視されてきた大会でもあります。

1月の第58回大会では、創部70周年記念ブースを設置し、五輪メダル展示などを行うとともに、選手の飛んでいるときの視線で撮影した映像をVR(バーチャルリアリティ)で体感できるコーナーも用意し、来場したお客様にお楽しみいただきました。



よりよい未来へ

平昌オリンピック出場を目指して、日々努力を続けています。
皆様の応援に応えられる選手になります。

雪印メグミルク株式会社 北海道統括支店 北海道スキー部
小林 潤志郎(左)、伊東 大貴(右)



スポーツの楽しさと健康をはぐくむ雪印メグミルクカップ

5月、「第29回サッカーマガジン雪印メグミルクカップ 全国レディース大会」が長野県菅平高原にて開催されました。本大会は女子サッカーとしては日本最大級の大会であり、これまでも日本代表選手を数多く輩出してきました。今年は昨年よりも多い83チーム(約1,500名)が参加し、熱戦を繰り広げました。



レベルの高い試合が繰り広げられました

地域のスポーツ振興を応援しています

2月に京都府宇治市にて、「雪印メグミルクカップ京都少年サッカー支部選抜大会(上級の部)」が開催されました。京都府の各支部選抜の小学6年生14チーム(約350名)が試合に挑み、日ごろの練習の成果を発揮したファインプレーが多く見られました。会場では厳しい冷え込みの中、多くの父兄が選手たちにエールを送っていました。

そのほか、雪印メグミルクの各工場およびいばらく乳業(株)がバレーボールや野球、パークゴルフなどのスポーツ大会を主催し、地域のスポーツ振興に貢献しています。



関西販売本部長より優勝カップを授与

復興支援と災害対策

物資提供～雪印メグミルク、雪印ビーンスターク

4月に発生した熊本地震で被災した方々へ、国(農林水産省)の緊急要請に応じて、日本乳業協会と連携し、雪印メグミルクから常温保存が可能なLL(ロングライフ)牛乳を5,760本と、雪印ビーンスターク(株)から育児用粉ミルク640缶をお届けしました。

また、雪印メグミルクグループ義援金として3,000万円を寄付しました。

2社それぞれに農林水産大臣から
感謝状を授与されました



よりよい未来へ

様々な仕事を通じて識見を高め、さらには仲間とのコミュニケーションを大切にして人望のある人間に成長したい。

雪印メグミルク株式会社 阿見工場 製造課
稲益 伸悟



復興支援(雪印種苗)

雪印種苗(株)では、2013年より、仙台市沿岸部の植栽活動を支援しています。東日本大震災後の海辺に蘇りつ



植栽交流活動の様子と、東北沿岸でよみがえったハマヒルガオの花

つある砂浜植物の種を採種し、自社で苗まで育てた後再び現地に植栽し、“里浜”の自然環境を取り戻す活動を行っています。この方法は、広域ネットワークを用いて里浜を保全・再生する手法のひとつとして、復興工事用地の跡地の生態系保全にも活用されています。



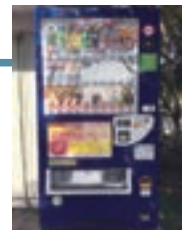
雪印種苗本社での苗づくりの様子

災害救援用自販機(エスアイシステム)

(株)エスアイシステムは、災害救援用自動販売機を共同配送センターに12台設置しています。簡単な操作で機内の商品を取り出せる機能で、災害発生などの緊急事態

に停電が起きた場合でも、近隣企業や住民の皆様へ飲料を配布することが可能です。

川崎センターに設置されている
災害救援用自販機



工場での地域災害対策(なかしべつ工場、名古屋工場、神戸工場)

災害時における避難場所提供、災害応急用井戸水や物資の供給、被害軽減への協力など、地域のニーズに合わせて各工場で協定を締結しています。

3月、神戸工場は、神戸西消防署と合同で特殊災害対応訓練を実施しました。協力会社を含め雪印メグミルク側から68名、消防署から27名と、消防車両4台が参加し、近隣の防災福祉コミュニティからも見学者が訪れました。合同訓練は、工場の防火防災活動を見直す良い機会ととらえ、これからも積極的に参加してまいります。



1名が逃げ遅れた想定で、従業員による避難誘導や消防への通報、工場の自衛消防隊と消防署救助隊による合同放水訓練などを行いました。

文化振興の活動

雪印メグミルク 夏休みファミリーミュージカル

8月、夏休みイベント「雪印メグミルク 夏休みファミリーミュージカル」を開催しました。子供たちの身体の健康のみでなく、心のすこやかな成長にも貢献したいとい

う願いから、1985年より毎年大阪で続けている社会貢献活動です。

今回は従来よりも公演回数を1回増やして4回公演とし、合計約2,600名のお客様が来場され、会場は熱気に包まれました。



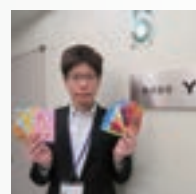
出演者との記念写真撮影も行い、子供たちは目を輝かせていました。夏休みの楽しい思い出づくりにお役に立てたことが、スタッフ一同、何よりの喜びです。

32年間続くミュージカル、2016年も
約2,600名が夢と感動に包まれました

よりよい未来へ

雪印メグミルクの自動販売機のスペシャリストを目指して頑張ります。
自販機の悩み相談、お伺いします！

株式会社YBS ビジネスサポート事業部 牛乳販売店サポートグループ
矢部 太一



知識・技術の社会還元

6次産業化支援活動(ニチラク機械)

ニチラク機械(株)は、牛乳・乳製品をはじめとする食品製造機器の製造およびプラントエンジニアリングを行う会社です。

昨今、「六次産業化法」の施行(2011年)により、小規模の酪農家が生乳生産から加工までを行い、最終商品を作って販売することが奨励されています。牛乳・乳製品の需要拡大による間接的な酪農への貢献とともに、酪農家や教育・研究機関への「チーズを代表する乳製品の製造

技術」を提供することも大きな貢献と考え、ニチラク機械(株)はこうした酪農家に対して、小型チーズバットなどの製造機器の提供や技術指導を行っています。お客様のご要望を聞き、関連法規も踏まえながら全体プランを提案することから始まり、設計、施工、試運転に加え、製造作業の現場指導までをセットで提供しています。経験豊富なシニア人材を筆頭に、技術相談に対応できる体制を整え、全国のチーズ工房や酪農家・酪農団体の皆様へ継続的な支援を行っています。



チーズ製造研修での指導の様子



ニチラク機械の手掛けた小規模チーズ製造室

6次産業化関連のプラント受注件数

2016年度 **11** 件

小型チーズバットを使用したチーズ製造研修を全国で実施

2016年度 **12** ヶ所で **17** 回開催

大学でのチーズ講座(チェスコ)

6月、東京農業大学「食と農」の博物館において、「NPO 法人良い食材を伝える会」が主催する公開講座が行われ、チェスコ(株)の技術顧問が「国産チーズ、今むかし」と題し、受講者30名に、日本人のチーズ受容の歴史、日本人の嗜好の特徴、国産チーズのおいしさなどについて、小淵沢チーズ工房(雪印メグミルク チーズ研究所)のチーズの試食を含めて90分の講演を行いました。



よりよい未来へ

現在行っている母乳調査の結果を活かし、赤ちゃんとお母さんに一番母乳に近いミルクを届けたい!

雪印ビーンスターク株式会社 商品開発部 シーズ研究グループ
小林 俊二郎





コーポレート・ガバナンス

責任ある経営と ステークホルダーからの 信頼のために

雪印メグミルクグループ行動規範および行動基準

「雪印メグミルクグループ行動規範」は、雪印メグミルクグループが社会的責任を果たしていく上での行動の基本を示したものです。また、行動規範を具体的にして、遵守すべき事項を取りまとめたものが、雪印メグミルクグループ

の各社が制定した自主行動基準です。雪印メグミルクグループの全役員・従業員は行動規範と自主行動基準をすべての活動の基本としています。

雪印メグミルクグループ行動規範

私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果たしていくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下の通り行動いたします。

- 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切にし、誰からも信頼されるように行動します。
- 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
- コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行います。
- 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに第三者の権利を尊重します。
- 企業活動を通して、社会貢献と環境保全に取り組みます。
- 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくります。

2つの事件

雪印乳業食中毒事件

雪印乳業(株)大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。2000年6月27日、大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株)大樹工場で発生した停電事故により、製造された脱脂粉乳が汚染され、それを原材料として製造した脱脂粉乳を大阪工場で低脂肪乳などの原料として使用していたことが分かりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって、社会に牛乳・乳製品をはじめとする加工食品の製造に不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えました。

雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、安価な輸入牛肉を国産牛肉と偽って申請し、交付金を不正に受給した詐欺事件。2002年1月23日の新聞報道で表面化しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。



2014年、2016年に発行した社史に、2つの事件の詳細を記載しています。

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動

～雪印の事件を風化させない～

「雪印乳業食中毒事件」と「雪印食品牛肉偽装事件」を風化させることなく教訓とし、食に携わるものとしての責任を強く認識するための活動を、2つの事件が発生した6月と1月に毎年実施しています。

6月には、近畿圏の得意先担当者、大樹工場の酪農担当者などが当時の経験談を語る、パネルディスカッションを実施しました。1月には、「人と組織と社会の幸せを実現する倫理」と題し、東京工業大学の札幌教授に講演いただきました。

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動

2004年からスタートして **13** 年、
27 回目



全国のCSRリーダー、グループ会社および本社の役員を中心に230名が参加し、意見交換しました。

CSRグループ活動

雪印メグミルクでは、企業の社会的責任について理解を深め、行動につなげていく話し合いの時間として、「CSRグループ活動」を2003年から続けています。職場単位で毎月実施され、雇用形態に関わらず、全従業員が参加しています。

行動基準の読み合わせを毎回行い、コンプライアンス意識の強化を図るほか、企業理念の理解、職場でのCSR推進といった月ごとのテーマについて話し合っています。

「雪印乳業食中毒事件」と「雪印食品牛肉偽装事件」が発生した6月と1月には、原因や経緯を振り返り、当時の報道映像を視聴することで、食に携わる者としての責任感と倫理観を新たにしています。



事件後に入社した従業員が過半数を超えた今、全社統一の活動としてますます貴重な機会となっています。



コンプライアンス研修でのグループ討議(いばらく乳業)

CSRグループ活動

2003年からスタートして **14** 年目

多様な価値観や異なる意見に耳を傾けることの実践や、職位や立場を超えた交流といった副次的な効果もあり、日常の業務とは違った、組織活性に有効な場としても機能しています。

また、グループ会社でも、コンプライアンスを中心に各社の必要性と課題認識に合わせて独自で企画した活動を行っています。

宣誓書の提出

雪印メグミルクの全役員・従業員は、「雪印メグミルク行動基準」を遵守する意思表示として、毎年10月に宣誓書に署名し、社長に提出しています。社長も署名を行い、CSR担当役員に提出します。



代表取締役3名の宣誓書

よりよい未来へ

コツコツと知識と技術を磨き続けて、製造部門からも品質部門からも頼られる品質のプロでありたいです！

雪印メグミルク株式会社 福岡工場 品質管理課
中村 湧



コーポレート・ガバナンス体制

基本的な考え方

雪印メグミルクは、経営における透明性の確保と社外からの監視機能の強化、市場の変化に即応できる経営体制の確立を柱に企業価値を向上させていくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。

この基本方針に基づき、コーポレート・ガバナンスの強化に積極的に取り組み、株主の皆様をはじめとした全てのステークホルダーに対する責任を全うしていきます。

なお、雪印メグミルクは取締役会の監督機能の強化および業務執行の機動性向上を目的に、監査等委員会設置会社を採用しております。

■ コーポレート・ガバナンスに関する報告書

国内証券取引所の規則に従い作成している雪印メグミルクのガバナンス全般にかかる報告書で、「コーポレートガバナンス・コード」の各原則に対応した形で、雪印メグミルクのコーポレート・ガバナンスの体制、対応状況などを記載しています。



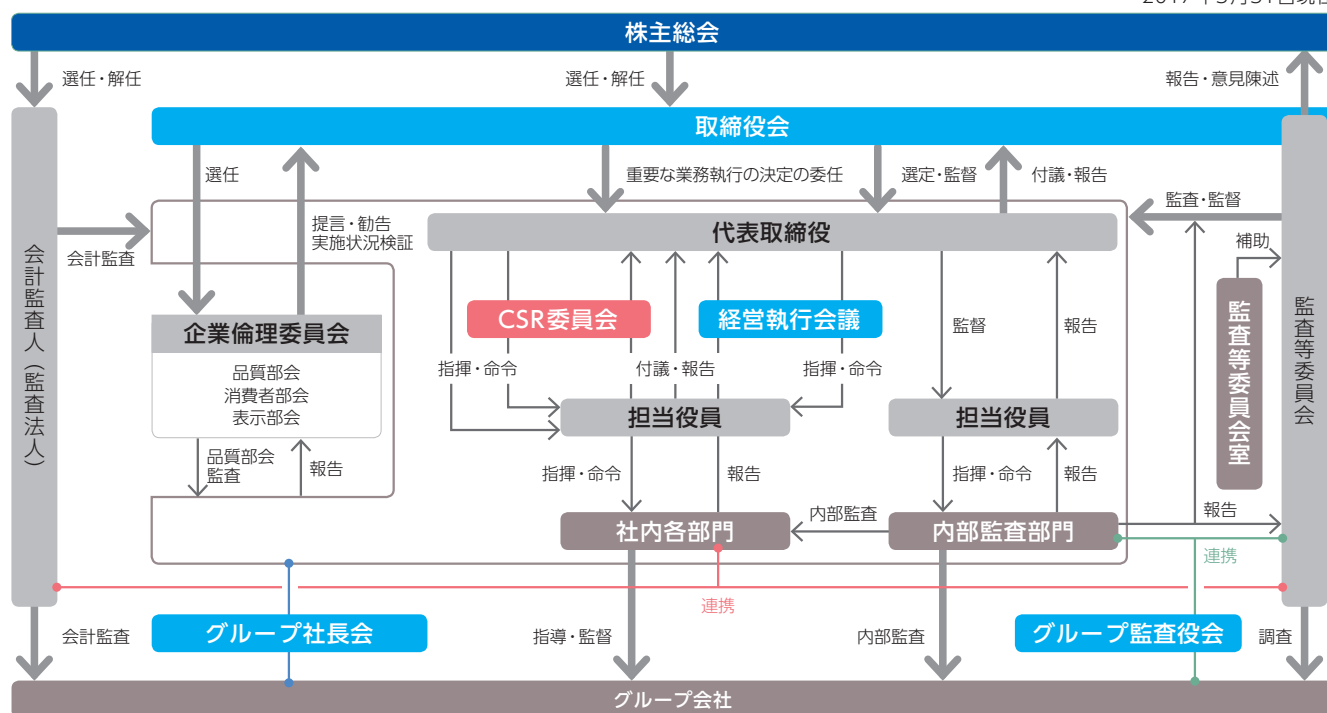
コーポレート・ガバナンスに関する報告書
<http://www.meg-snow.com/ir/governance/pdf/governance.pdf>



コーポレート・ガバナンスに関する基本方針
<http://www.meg-snow.com/ir/governance/>

コーポレート・ガバナンス体制図

2017年3月31日現在



よりよい未来へ

考えをしっかりと行動に移せ、職場内で頼られる存在。どんなことも笑顔で乗り越えられる人間になりたい。

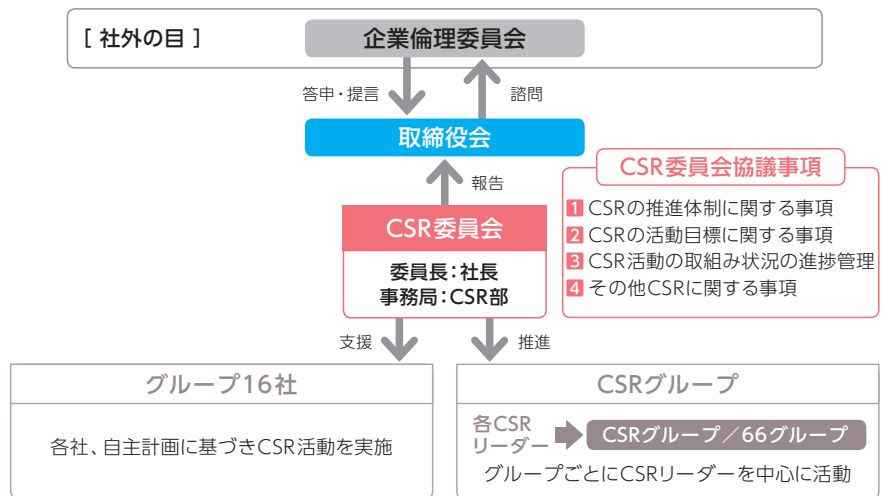
みちのくミルク株式会社 本社工場 製造課
山田 亮



CSR推進体制

雪印メグミルクグループでは、CSRを推進するための経営レベルのガバナンスとして、「CSR委員会」を設置しています。社長が委員長を務め、全常勤取締役およびCSR部長を委員とし、原則年2回開催しています。

CSR推進体制図



各部署に配置されているCSRリーダーが、CSR活動を推進しています。



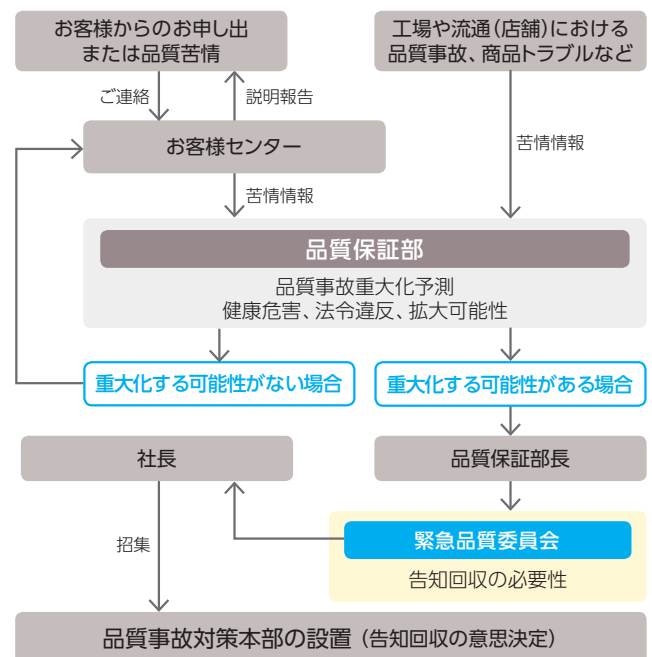
危機管理体制

雪印メグミルクは、商品の事故に迅速・適切に対応するために、危機管理体制を構築しています。

日々のお客様からのお申し出から入手された商品の品質に関わる情報や、工場・店舗からの苦情情報は、品質保証部に伝えられます。健康危害、法令違反、事故拡大など重大化する可能性があるとは判断された場合には、緊急品質委員会を開催し、事実関係を調査把握し、速やかに必要な対応を講じます。委員会での検討の結果、新聞などへの告知回収など、会社経営上の速やかな決断が必要な場合は、社長を対策本部長とする品質事故対策本部を設置し、対応します。

また、雪印メグミルクは、グループ全社のリスクとトラブルの管理および対応を行うために、社長、副社長、監査等委員、総務、品質保証、CSR、広報IR、人事の担当役員および担当部署の長をメンバーとする「リスク連絡会」を原則毎週、本社で開催しています。商品の品質以外も含めた広範なトラブル、リスク案件について、情報の迅速な共有化を図るとともに、リスク案件への対応のチェックを行います。

危機管理体制 (品質事故対応)



企業倫理委員会

企業倫理委員会は、取締役会の諮問機関として2002年に設立され、社外有識者、労働組合代表および社内委員によって構成されています。定例委員会を毎月開催し、経営全般に対する「社外の目」による提言と検証を行い、企業活動に活かしています。

第8期企業倫理委員会・
専門部会委員一覧

PAGE
63



諮問に対する提言と2016年度の主な取組み

諮問内容1 消費者重視経営に関すること

提言	取組み
1.重要なステークホルダーである消費者との対話（ダイアログ）の場を充実させましょう。	・企業倫理委員会消費者部会 (P.54) ・お客様モニター (P.24)  お客様モニター
2.引き続き、消費者の声・意見・要望を傾聴し、誠実に応えていきましょう。	・お客様満足向上ミーティング(P.26) ・お客様モニター、消費者部会でいただいたご意見を社内へ共有 (P.24, P.54) ・読者アンケート結果を反映した「CSR活動報告書2016」の発行 ・SNSサイト(Facebook公式ページ)での情報発信 ・ホームページデザイン改訂による利便性向上と「よくいただくご質問」の充実 ・お客様の声にお応えした事例をホームページなどで開示  CSR活動報告書2016
3.商品の表示や広告などでは、消費者が求める情報、消費者に伝えるべき情報を適切に判断し、消費者に誤認や誤解を与えないよう、正確に表現しましょう。	・企業倫理委員会消費者部会、表示部会 (P.54) ・リーガルチェック体制 (P.54) ・お客様センターにいただいたご意見を社内イントラネット「お客様の声」で共有  イントラネット「お客様の声」

諮問内容2 「食の安全・安心(品質管理)」「企業倫理(コンプライアンス)」の徹底に関すること

提言	取組み
1.従業員一人ひとりの製造技術、保全技術、衛生管理、検査分析技術のレベルアップのため、工場での後継者育成を見据えた教育・研修を充実させましょう。	・工場従業員を対象とした衛生教育 ・各技術ごとの研修体系に沿った研修
2.品質トラブルおよび品質苦情を従業員で共有し、製造工程における品質課題の解決に向けて、効果的な対策を推進しましょう。	・企業倫理委員会品質部会(P.54) ・品質トラブルの原因・対策事例、品質課題の進捗などの情報を工場間で共有
3.5S [*] は品質管理の基本であり、5Sガイドラインの内容にそった活動を全員参加で継続して取り組みましょう。 ※ 整理・整頓・清掃・清潔・しつけの頭文字	・新たな5S基準を用い、工場による自主点検を本社スタッフがサポート ・品質部会で指摘された事項の改善状況や、委託先の5Sを品質保証部監査で確認
4.「雪印メグミルク行動基準」について、全役員・従業員が理解を深め、実践していきましょう。	・CSRグループ活動(P.49)

諮問内容3 企業風土および組織・人材の活性化に関すること

提言	取組み
1.社内のコミュニケーションを深めるように意識し、工夫しましょう。	・役員と従業員の対話(「役員キャラバン」の実施、研修での意見交換) ・「チームワーク強化費用」により、部署内の円滑なコミュニケーション醸成を支援
2.一人ひとりが積極的かつ責任を持った行動に努め、明るく活力のある職場をつくっていきましょう。	・労働生産性の向上と業務改革(P.58)
3.すべての従業員が生き生きと活躍できるよう環境を整備し、ダイバーシティを推進していきましょう。	・女性活躍推進(P.55) ・人材育成(P.59) ・多様な人材の就労環境の整備(P.57)

諮問内容4 その他、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)に関すること

提言	取組み
全役員・従業員が雪印メグミルクグループ企業理念の実現と、CSRの確立に向け、行動していきましょう。	・CSRグループ活動(P.49)



CSRグループ活動

企業倫理委員会 定例報告事項

- ・CSR委員会、専門部会、お客様モニター実施内容
- ・苦情分析対応
- ・広報概況(情報発信内容、お客様センター入電概要、マスコミ報道概況)
- ・CSRグループ活動実施内容
- ・ホットラインの通報および対応の状況

専門部会

企業倫理委員会は、毎月の定例委員会のほかに、3つの専門部会での活動を行っています。

第8期企業倫理委員会・
専門部会委員一覧

PAGE
63

品質部会

工場の品質管理向上のため、品質・衛生管理の専門家である社外委員が工場での監査や意見交換を行っています。指摘事項に対して、工場は改善策を立案・実施し、企業倫理委員会へ報告します。

2016年度は、全国11工場にて監査を実施しました。



消費者部会

消費者団体の代表者や消費者問題に関する有識者の皆様に雪印メグミルクグループの取り組みを紹介し、消費者視点での評価と意見をいただいています。

2016年度は、関東、関西で計4回実施しました。関東では阿見工場の新しい見学施設(P.24)をご覧いただいたあと、「当社が社会の課題にいかに対応できるか」というテーマで意見交換しました。また関西では、食育活動やお客様対応についてご意見を頂戴しました。



企業倫理委員会消費者
部会に参加いただいている
主な団体一覧

PAGE
63

表示部会

消費者にとって重要な情報源である商品パッケージ表示に関して、雪印メグミルクの自主基準との整合性や、誤認・誤解を与えない適切な表示かどうか、消費者視点に立ち厳しいチェックを行っています。

また、社会のトレンドにも留意しながら、必要に応じて自主基準の見直しも行っています。

2016年度は、8回の部会を開催しました。



法令チェック体制

雪印メグミルクは、CSR経営のベースであるコンプライアンスを徹底するため、また、会社の重要な資産である知的財産を保護し、他者の知的財産権を尊重するため、リーガルチェック体制を整えています。

そのため、社内システムを構築し、表示関連法規や景品表示法、知的財産関連法規などの各法令の担当部署が、

迅速かつ確実に商品パッケージ表示や広告宣伝物の確認作業を行えるようにしています。

また、個人情報の取扱いについても、「個人情報保護方針」および社内ガイドラインに則り、紛失や改ざん、漏えいなどを防止し、適切に管理する体制を整備しています。



人材の多様性確保と働きやすい環境の整備

それぞれの個性が創りあげる
価値を力に

女性活躍推進

雪印メグミルクグループは、性別、年齢、国籍、価値観など様々な背景を持つ人が、それぞれの多様性・個性を認め、尊重し合い、それを活かしながら、相乗効果(シナジー)を発揮し、活力ある、生産性の高い、成長し続ける組織へと、変わっていかねばなりません。現在、人材の多様性確保の中核に女性活躍推進を位置づけ、能力を発揮するための環境づくりに積極的に取り組んでいます。

雪印メグミルクグループ「女性活躍推進」宣言

「女性活躍」を企業戦略として推進します。

社会の環境変化に伴い、食品市場においては、あらゆる年齢・ライフステージにある多様な、変化し続けるニーズ・価値観をスピーディに捕まえていくことが求められています。食品市場に向き合い、「消費者重視経営の実践」を実現していくためには、女性社員の力を活かすことが不可欠です。雪印メグミルクグループは、「人材の多様性の確保」の中で中核となる「女性活躍」を企業戦略として推進します。

女性社員が主体的に行動し、影響力を発揮できる会社に変えていきます。

「女性活躍」の阻害要因となっている性別役割分担意識などを変革し、女性社員が、結婚、出産、育児などのライフイベントを乗り越えて、意欲と能力に応じて様々な業務で活躍できるように取り組みます。そして、女性社員が生き生きと主体的に行動し、影響力を発揮できる会社に変えていきます。

長時間労働を是正し、ワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整えます。

長時間労働を前提とする働き方は、女性社員に限らず育児、介護を抱える社員にとって大きな負担となっています。労働生産性を向上させ、仕事上の責任を果たしながら、一人ひとりがワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整えます。

行動計画の実現に向けた具体的施策

行動計画(全文)は巻末「補足資料(P.63)」に掲載

雪印メグミルクは、「人材の多様性の確保と能力を発揮するための環境づくり」に取り組んでいます。その中核となる女性の活躍推進のための行動計画を策定し、実現に向けた具体的な行動を推進していきます。

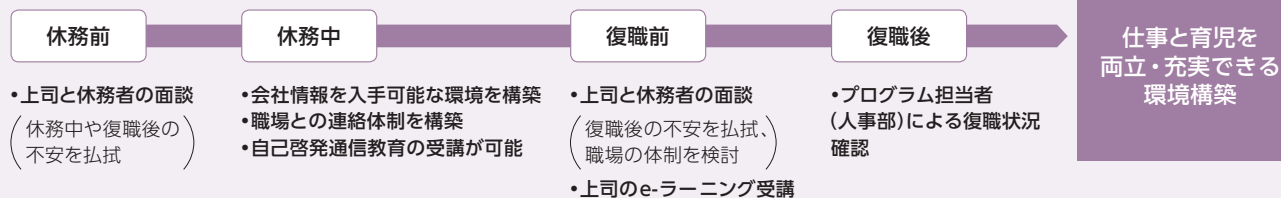
【主な取組み内容】

取組み1：仕事と育児の両立を支援

出産・育児と仕事を両立できるよう支援するために、様々なプログラムを提供しています。女性だけでなく男性の

育児休職者も利用可能です。上司や職場と連携しながら、仕事と育児を両立できる環境づくりを構築しています。

育児休職者両立支援プログラム



取組み2：計画的な人材の育成

女性社員が自身のキャリア形成に対する意識を醸成するための研修として、職級に合わせた「女性リーダー研修」「女性リーダーチャレンジ研修」を実施しています。

研修対象者は、キャリアビジョンの実現に向け主体的に行動することへの意識づけや、リーダーが必要とするスキルの習得を目的として受講しています。また、キャリアアップへの不安を軽減するために、先輩社員との意見交換や社内のネットワークの構築を行います。

女性経営職比率目標

5年後(2021年3月31日時点) **5%**
10年後(2026年3月31日時点) **10%**
(参考) 2017年3月現在 2.6%



取組み3：女性活躍推進に対する意識の醸成

社内イントラネットや社内報を通じた女性活躍推進やワーク・ライフ・バランスなどに関する情報発信を行い、女性活躍推進に対する意識醸成、制度などの理解へつなげています。

● 役員インタビュー

役員と女性社員が女性活躍推進に関する対話を行い、その内容を社内イントラネットで定期的に発信することで、意識醸成を図っています。



会社の持続的成長のため、社員一人ひとりが能力を発揮できる環境を作ることが女性活躍推進の真の目的であることや、自分なりの活躍の姿を考えて主体的に行動して欲しいといった、各役員からのメッセージを発信しています。

【社内イントラネット】

イントラネットに専用サイトを設け、女性活躍推進に関する取組みレポート、制度紹介などの情報発信を行っています。

コンテンツ

- ・取組みレポート(研修報告など)
- ・私たちが考える“ジョカツ”
(役員インタビュー、社員・イクメン紹介)
- ・育児休務者両立支援プログラム
- ・人事制度(結婚・出産・育児関連)



【社内報】

年4回発行の社内報で、女性活躍推進における代表的な取組みを掲載しています。



多様な人材の就労環境の整備

雪印メグミルクグループでは、年齢、障がいの有無に関わらず、多様な人材の活躍の場を提供し、就労環境の整備と雇用促進を図っています。

【シニア社員制度の拡充】

雪印メグミルクでは、60歳定年退職後に再雇用を希望する社員については65歳までの再雇用を可能とする、「シニア社員制度」を導入しています。

シニア社員についても、成果を適切に評価し、モチベーション向上につなげるため、人事評価を行っています。

2017年4月に、ライフスタイルの変化に合わせて短縮勤務を希望するシニア社員にも活躍の機会を提供できるよう、「パートタイムシニア社員制度」を新設しました。

【障がい者雇用の促進】

雪印メグミルクでの障がい者雇用率は1.8% (2017年3月現在)で、法定雇用率の達成に向けて継続的に採用活動に取り組んでいます。

また、(株)YBSでは、各事業所において近隣の特別支援学校と連携し、定期的な情報交換、両者のニーズのマッチングを行いながら、2012年度より知的障がい者インターンの受入れを行っています。その成果として、2015年度より採用を開始し、2016年には法定雇用率2.0%を達成しました。環境整備や設備保全など、一人ひとりの特性に応じた業務を任せるとともに、無理なく職域拡大できるよう、安全で働きやすい職場環境の整備とノウハウの蓄積に取り組んでいます。

よりよい未来へ

「働くお母さん」として仕事に育児に大奮闘★雪印メグミルクブランドと私たち、お母さんパワーでさらに広がる可能性！

雪印メグミルク株式会社 野田工場 工務課／製造二課
奥田 みどり(左)、猪狩 美咲(右)



多様な働き方

従業員の多様な働き方を支援するため、新制度の導入や改正を積極的に進めています。

【ジョブリターン制度：利用条件緩和】

2016年、家庭の事情などで退職した社員の再雇用を可能とする「ジョブリターン制度」の条件を緩和する改正を行いました。これにより、退職の理由や回数、退職後の経過年数に関わらず、正社員を含めた様々な雇用形態に再びチャレンジすることを可能としました。

【地域限定社員制度：経営職への適用拡大】

人材を確保し、多様な働き方を支えるため、従来より地域限定社員制度を設けています。本人の申請を受け、一定の条件を満たす場合には、転宅を伴わない範囲内での転勤に限定する制度です。

2016年に制度改正を行い、一般職のみでなく経営職でも本制度を利用できるようになりました。これにより、育児や介護などで転宅が難しい社員でも、経営職登用にチャレンジできるようになりました。

労働生産性の向上と業務改革

多様な人材が活躍するためには、限られた時間の中で効率的に業務を遂行できるよう働き方を変革し、育児や介護などで時間に制約のある従業員でも最大限能力を発揮できる風土へと変えていくことが不可欠です。雪印メグミルクでは、2016年度から「タイムマネジメントの強化」と「業務効率化」を中心に、慣習にとらわれない工夫・改善により、職場環境づくりと従業員一人ひとりの意識醸成を積極的に推進しています。

【タイムマネジメントの強化】

長時間労働を前提とした働き方の変革に取り組んでいます。

(例)

- ・ パソコンのログオン／ログオフ時刻の記録を活用することで、自らの労働実態を上司とともに把握し、職場における業務効率化などの取組みやタイムマネジメントに対する意識を向上
- ・ 部署単位での時間外労働状況の分析と削減目標の設定

4年後（2019年度）の時間外労働目標

目標 **20**%削減

1年後（2016年度）の時間外労働実績

実績 **11.6**%削減

2015年度上期の月平均対比

【業務効率化】

管理プロセスの簡素化や業務の効率化などを通して、労働生産性の向上と時間外労働削減を図っています。

(例)

- ・ 社内決裁などの権限規定の見直しや、報告資料の削減などによる管理プロセスの簡素化
- ・ 会議体の集約や廃止、運営方法見直し
- ・ 全支店・営業所へのテレビ会議システムの設置と活用促進
- ・ 電子稟議システムの拡充による効率的な決裁手続き
- ・ 部署内業務の定期的な棚卸しと分担の見直し
- ・ 業務の個人集中を回避するためのマニュアル化や情報共有、部署全体のスキルアップ

労務管理ルールの遵守状況を調査したところ、「部下との対話を通じた業務上の改善事項の確認」など、すべての項目において「適切に実施」「ほぼ実施」の割合が9割を超えました。

よりよい未来へ

労働生産性の向上を通じて「仕事」と「生活」を両立し、社員が生き生きと働いている会社であってほしい。

雪印メグミルク株式会社 総合企画室
鍵水 一房



【現場での取り組み事例】

神戸工場では、女性でもバルブの締め付けが強く出来るようにレバーを長くする、マンホールや頭上のバルブを閉める作業を安全に行うための改善、台の設置やリフター導入など重量物を扱い易くするための工夫を行い、腕力の弱い女性でも無理なく作業できる態勢を順次整えました。

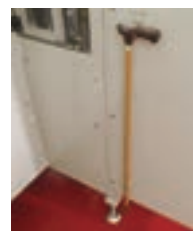


台を設置し、作業の安全性を向上しました。

また、阿見工場では、手の不自由な方にも使いやすいよ

うにトラブル対応用の道具を軽量化したり、男性が主体的に作業する領域を女性に体験してもらい、意見を反映することで女性でも作業できる環境に改善しました。

いずれの工場でも、作業負担が軽減されることで全員の働きやすさへの一助となると同時に、職場のメンバーのために何ができるか、という一人ひとりの心配りが、チームワークの強化、個々のモチベーションアップにつながっています。



機器下部に入ってしまった物を取り出す道具。ステンレス製の棒から杖に変更したことで、軽量化により片手でも作業が楽にできるようになりました。

人材育成

基本方針

「雪印メグミルクグループの持続的成長を支える人材の育成」「個人の能力開発を通じた社員一人ひとりの自己実現」「人材の多様性の確保」のために、グループとして人材育成に向けた各種施策を強化しています。具体的には、OJTを基本とした個々人の計画的育成・キャリア支援に加え、求められる行動・スキル・知識の視点から新たに体系化された階層別研修や専門研修を展開します。これらに

より、グループ経営の次世代を担うリーダーとしての人材を育成していきます。

重点取り組み内容～階層別研修

- ① 習得すべきスキルの体系化と研修プログラムの再編
- ② 中堅社員向け研修の充実
- ③ 経営職向け研修の充実

研修体系 階層別研修／通信教育・e-ラーニング

区分	役職 職級	階層別研修	新設研修	通信教育 e-ラーニング
経営職	所属長			
	課長	マネジメント強化研修		
	新任経営職	新任経営職 新任経営職研修 (フォローアップ)		アカウントティング応用 タイムマネジメント
一般職	6級	6級昇級時研修	女性リーダー研修 女性リーダー チャレンジ研修 ・基本研修 ・フォローアップ研修	
	5級	5級昇級時研修		プレマネジメント ※6級昇級要件
	4級	4級昇級時研修		ロジカルライティング/ スピーキング ※5級昇級要件
	3級	3級昇級時研修		
	2級	新入社員研修	工場実習	アカウントティング基礎 ※3級昇級要件
	1級	酪農研修	2年目 フォローアップ研修	



酪農研修(新入社員)



自己啓発通信教育講座のウェブ案内画面

よりよい未来へ

人材開発の業務経験を活かして、10年後は営業現場で「人づくり」を通じ、最強のチームをつくりたいです。

雪印メグミルク株式会社 人事部 人材開発センター
辻 真樹



社内アイデア募集システムによる多様な価値観の活用

雪印メグミルク社内で2015年7月にスタートしたアイデア募集システムには、商品を中心とした様々なアイデアが累計1,050点投稿されています。

2016年度は、新商品発売に貢献した投稿者6名に対して表彰を行いました。すべての従業員が商品開発への参加意識を持つよう働きかけるとともに、多様な価値観や発想を広く取り入れることで、メーカーとしての成長基盤強化の一助としています。

アイデア投稿数
累計 1,050 点

2015年7月スタート時から2017年3月末日まで



アイデア募集システムの画面



6名の投稿者が表彰されました



アイデア募集システムが発売に貢献した
2016年度の新商品および改良品

従業員の人権確保

内部通報制度「ホットライン」

雪印メグミルクグループでは、グループ各社共用の社内通報相談窓口「雪印メグホットライン」と社外通報相談窓口「社外（弁護士）ホットライン」を併設しています。

いずれも、法令違反、社内規定違反や社会から非難を受ける恐れのある重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・提案なども、制限を設けず受け付けています。通報に対しては、プライバシー保護に配慮し、調査および対応を行い、また、機会あるごとにホットラインの活用を呼びかけています。

ホットライン通報件数 ▶ PAGE 64

ハラスメント防止のための啓発

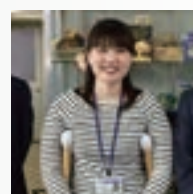
一人ひとりの人権を尊重し、相互理解のもとで日常業務を進めるため、継続的にハラスメント防止に向けて取り組んでいます。

2016年度は、雪印メグミルクの階層別研修や新任経営職研修などにおける啓発活動に加えて、グループ会社で開催される研修への講師派遣を行ったほか、マタニティハラスメント関連の法改正情報をまとめた「CSR情報かわら版」を雪印メグミルクグループ全社に配布することで、改めて意識づけを行いました。

よりよい未来へ

一人ひとりが責任感を強く持ち、今よりももっと社員の満足度が高い会社になってほしい。

雪印メグミルク株式会社 北海道統括支店 北海道乳食品課
木下 円花

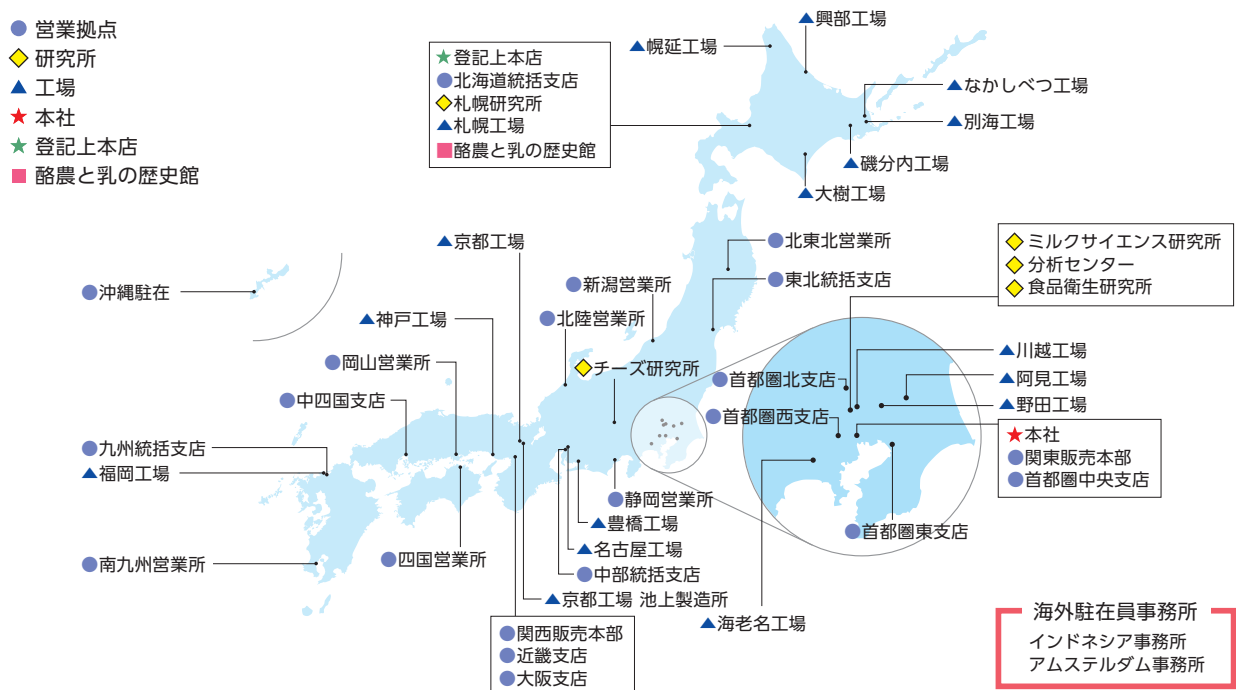


雪印メグミルク 会社概要

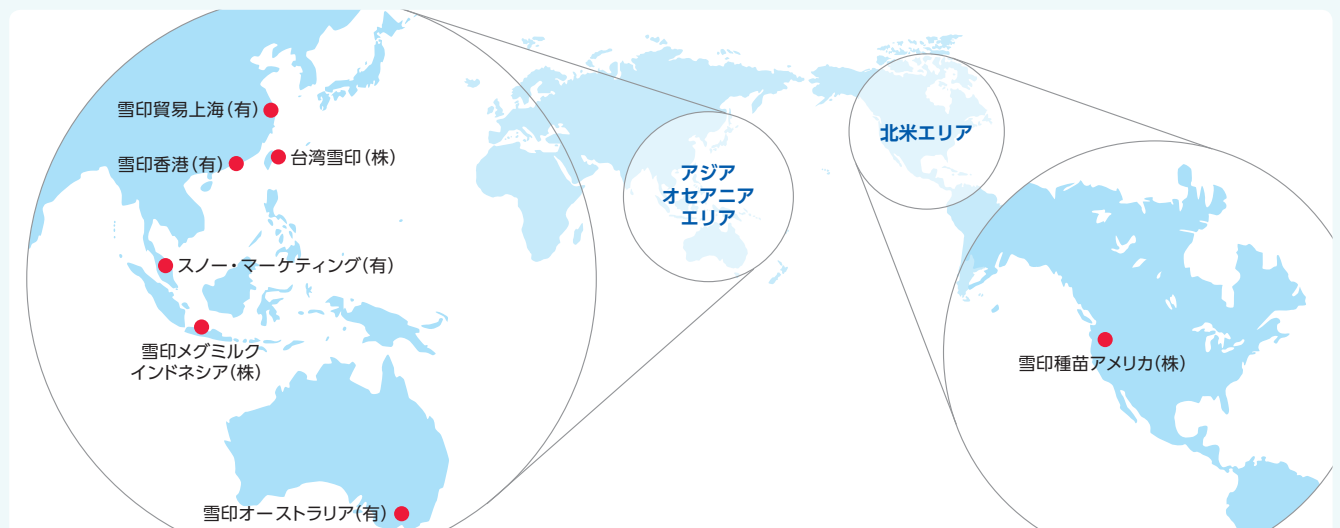
商号	雪印メグミルク株式会社 MEGMILK SNOW BRAND Co.,Ltd.	設立年月日	2009年10月1日
事業内容	牛乳、乳製品および食品の製造・販売等	代表取締役社長	西尾 啓治
本店所在地	(登記上本店) 北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 (本社) 東京都新宿区本塩町13番地	資本金	200億円
		決算期	3月31日



雪印メグミルク 事業所一覧



雪印メグミルクグループ 海外拠点



工場・歴史館の見学をご希望の場合は、お手数ですが、あらかじめ各工場・歴史館にお電話でご予約願います。
なお、工場によっては見学を休止している場合があります。詳しくはお尋ね下さい。

日本の酪農・乳業
に関わる史料**雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館**北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号
TEL. 011-704-2329牛乳類・飲料・
ヨーグルト**雪印メグミルク(株)札幌工場**北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号
TEL. 011-704-2329

(受付は雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館で行っています。)

ナチュラル
チーズ**雪印メグミルク(株)なかしべつ工場**北海道標津郡中標津町丸山2丁目9番地
TEL. 0153-72-3281ナチュラル
チーズ**雪印メグミルク(株)大樹工場**北海道広尾郡大樹町緑町35
TEL. 01558-6-2121牛乳類・デザート・
ヨーグルト**みちのくミルク(株)本社工場**宮城県大崎市岩出山下野目字八幡前60-1
TEL. 0229-72-2011プロセスチーズ・
マーガリン**雪印メグミルク(株)阿見工場**茨城県稲敷郡阿見町星の里22番地
TEL. 029-829-5236牛乳類・飲料・
ヨーグルト**雪印メグミルク(株)野田工場**千葉県野田市上三ヶ尾字平井256-1
TEL. 04-7122-2246牛乳類・飲料・
ヨーグルト**雪印メグミルク(株)海老名工場**神奈川県海老名市中新田5丁目26番1号
TEL. 046-240-6300デザート・
クリーム**雪印メグミルク(株)豊橋工場**愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地79
TEL. 0533-78-3711牛乳類・
ヨーグルト**雪印メグミルク(株)京都工場**京都府南丹市八木町美里紫野1番地
TEL. 0771-43-2150牛乳類・飲料・
ヨーグルト**雪印メグミルク(株)京都工場 池上製造所**京都府南丹市八木町池上古里1番1
TEL. 0771-42-6871牛乳類・
飲料**雪印メグミルク(株)神戸工場**兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和824-1
TEL. 078-912-2121

海老名工場

2017年3月31日現在

小泉 恒男	元標茶町農業協同組合 組合長
黒沢 寛寿	元全国酪農青年女性会議 委員長
松尾 要治	元全国農業協同組合連合会 酪農部長
鈴木 宣弘	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
矢坂 雅充	東京大学大学院経済学研究科 准教授
小林 信一	日本大学生物資源科学部 教授

第8期 企業倫理委員会・専門部会委員一覧

2017年4月1日現在

社外委員	阿南 久	元消費者庁長官	企業倫理委員会委員長 雪印メグミルク(株) 社外取締役
	森田 満樹	消費生活コンサルタント	消費者関連の有識者
	河口 洋徳	経営倫理実践研究センター 専務理事	企業倫理の有識者
	小林 俊夫	弁護士 長島・大野・常松法律事務所 顧問	法律の有識者
	佐藤 邦裕	日本食品衛生協会 技術参与	品質の有識者
	塚原 典子	帝京平成大学 健康メディカル学部 教授	栄養学の有識者
労働組合	吉田 尊志	労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
社内委員	石田 隆廣	代表取締役副社長	経営全般社長補佐 総務・秘書室・人事 担当
	土岡 英明	取締役専務執行役員	家庭用事業掌管、広域 営業・広報・CSR担当
	城端 克行	取締役常務執行役員	生産・生産技術担当

[品質部会委員]

社外委員	佐藤 邦裕	日本食品衛生協会 技術参与	品質部会長 企業倫理委員会委員 兼任
	森田 満樹	消費生活コンサルタント	企業倫理委員会および 表示部会委員兼任
	中村 優	品質安全推進共同センター (JASMEQ)顧問	衛生管理の有識者 品質部会委員専任
社内委員	田中 宏治	品質保証部長	品質部会委員専任

[消費者部会委員]

社外委員	阿南 久	元消費者庁長官	消費者部会長 企業倫理委員会委員長 兼任
社内委員	土岡 英明	取締役専務執行役員	企業倫理委員会委員 兼任

[表示部会委員]

社外委員	森田 満樹	消費生活コンサルタント	表示部会長 企業倫理委員会および 品質部会委員兼任
	松崎 政夫	元日本生活協同組合連合会 商品政策・安全管理担当	商品表示の有識者 表示部会委員専任
社内委員	小西 寛昭	取締役常務執行役員 研究開発・商品開発・ミルクサ イエンス研究所・品質保証担当	表示部会委員専任
	足立 晋	CSR部長	表示部会委員専任

企業倫理委員会消費者部会に 参加いただいている主な団体一覧

50音順

関東	関西
・主婦連合会	・NPO法人 京都消費生活有資格者の会
・全国消費者団体連絡会	・NPO法人 コンシューマーズ京都(京都消団連)
・全国消費生活相談員協会	・関西消費者協会
・東京消費者団体連絡センター	・全大阪消費者団体連絡会
・日本消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会	・なにわの消費者団体連絡会
・日本生活協同組合連合会	・奈良県生活協同組合連合会
・横浜市消費者団体連絡会	・日本消費経済新聞社
	・日本消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会 西日本支部

雪印メグミルク株式会社 行動計画

雪印メグミルクは、「人材の多様性の確保と能力を発揮するための環境づくり」に取り組んでいます。女性活躍をその中核と位置付け、以下を掲げて具体的な行動を推進していきます。

- ・[女性活躍]を企業戦略として推進します。
- ・女性社員が主体的に行動し、影響力を発揮できる会社に変えていきます。
- ・長時間労働を是正し、ワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整えます。

計画期間:2016年4月1日～2021年3月31日までの5年間

当社の課題

採用時の女性比率については一定の水準に達しており、継続勤務年数についても男女に大きな差は見られないが、女性のキャリアアップが進んでおらず、管理職に占める女性割合が低い。

背景として、管理職を目指す女性社員が少なく、かつ女性管理職・管理職候補の育成が十分でない。またそれらを支援する制度・環境が整っていないことが挙げられる。

目標

10年後の女性経営職(管理職)比率10%のステップとして、2021年3月31日時点での女性経営職(管理職)比率を現行の2倍以上(5%)にする。
(2015年4月現在 2.2%)

取り組み内容と実施時期

取り組み1:仕事と家庭の両立を支援

【2015年度からの継続施策】

- ・産前・産後休業や育児休業中の社員に対する復帰支援プログラムの提供
- ・短時間勤務制度の対応

【2016年度以降の新規施策】

- ・2016年4月～ 長時間残業の削減および職場における業務削減の取組
- ・2016年10月～ 人事諸制度の見直し(有給休暇の行使単位の見直し、ジョブ・プリアターン制度の拡充、子育て支援休暇の対象範囲の拡大 ほか)
- ・2017年4月～ 男性社員の育児参画に向けた取組み

取り組み2:計画的な人材の育成

【2015年度からの継続施策】

- ・女性社員が自身のキャリア形成に対する意識を醸成するための研修の実施

【2016年度以降の新規施策】

- ・2016年10月～ 管理職手前の女性社員を対象としたキャリア意識の醸成とスキル習得を目的とした研修の実施

取り組み3:女性活躍推進に対する意識の醸成

【2015年度からの継続施策】

- ・所属長を対象とした女性活躍推進やワーク・ライフ・バランス等に関する意識啓発のためのセミナー開催

- ・社内イントラネットや社内報を通じた女性活躍推進やワーク・ライフ・バランス等に関する情報発信

【2016年度以降の新規施策】

2016年5月～ 女性活躍推進やワーク・ライフ・バランス等に対する意識調査の実施

2016年7月～ 管理職、女性社員を対象とした女性活躍推進やワーク・ライフ・バランス等に関する意識啓発のためのセミナー開催

	2015年度	2016年度	範囲
社員数(連結)	4,823名	4,887名	連結会社計
社員数(単体)	3,005名	3,033名	
男性	2,580名	2,607名	雪印メグミルク(株)
女性	425名	426名	
女性管理職	16名	17名	雪印メグミルク(株)
女性管理職比率	2.50%	2.62%	(出向者を含む)
平均年齢	39.3歳	39.7歳	雪印メグミルク(株)
平均勤続年数	13.0年	13.7年	雪印メグミルク(株)
障がい者雇用率	1.92%	1.84%	雪印メグミルク(株)
育児休暇利用者	30名	48名	
うち男性	14名	19名	
子育て支援休暇利用者	44名 (延べ127日)	49名 (延べ152日)	雪印メグミルク(株)
看護休暇制度利用者	97名 (延べ468日)	110名 (延べ491日)	(出向者を含む)
短時間勤務制度利用者	35名	37名	制度利用者数

内容	2014年度		2015年度		2016年度	
	社内	社外	社内	社外	社内	社外
人間関係について	2	1	1	1	0	0
品質について	0	1	0	0	0	0
風土改革について	0	0	0	0	0	0
コンプライアンスについて	3	0	2	0	2	0
職場での問題行動について	18	1	16	2	21	5
社内制度や仕組みへの疑問	11	1	3	0	3	1
その他	4	0	1	0	0	0
合計	38	4	23	3	26	6

社内：雪印メグホットライン[グループ社内通報相談窓口]

社外：社外(弁護士)ホットライン[社外通報相談窓口]

ISO26000対照表

2010年11月に発行された、CSRに関する国際規格であるISO26000「社会的責任に関する手引き」に掲げられている7つの中核主題ごとに、「CSR活動報告書2017」に掲載している取組み内容を整理しました。

7つの中核主題	取組み内容	
1.組織統治	雪印メグミルクグループ 企業理念とCSR 経営	P.01
	トップメッセージ	P.03
	雪印メグミルクグループ長期ビジョン2026・中期経営計画2019	P.07
	コーポレート・ガバナンス	P.50
	コーポレート・ガバナンス体制	P.51
2.人権 3.労働慣行	CSR推進体制および危機管理体制	P.52
	企業倫理委員会および専門部会	P.55
	女性活躍推進	P.57
	多様な人材の就労環境の整備	P.58
	労働生産性の向上と業務改革	P.59
	人材育成	P.60
	社内アイデア募集システム	P.60
	内部通報制度「ホットライン」	P.60
4.環境	ハラスメント防止のための啓発	P.35
	環境への取組み	P.36
	環境方針および環境マネジメント体制	P.36
	「ISO14001:2015年版」改正対応	P.37
	環境監査および環境教育	P.39
5.公正な事業慣行	環境保全活動への取組みと支援	P.08
	地球温暖化防止と循環型社会への取組み	P.47
	株主・投資家との対話(IR活動)	P.48
	コーポレート・ガバナンス	P.49
	雪印メグミルクグループ行動規範および行動基準	P.54
6.消費者課題	「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」	P.22
	CSRグループ活動および宣誓書の提出	P.23
	法令チェック体制	P.24
	品質保証システム「MSQS」	P.24
	食育活動	P.25
	工場見学	P.26
	お客様モニター制度	P.26
	お客様センター	P.32
	お客様満足向上ミーティング	P.33
	事業活動と連動した寄付活動	P.41
7.コミュニティへの参画 およびコミュニティの 発展	乳(ミルク)にこだわる	P.43
	研究開発体制と主な機能性研究	P.44
	ミルクの機能性研究と商品開発	P.45
	社会の皆様とともに	P.46
	北海道地域での活動および地域の方々とのふれあい	P.28
	スポーツ貢献	P.29
	復興支援と災害対策	P.29
	文化振興の活動	P.30
	知識・技術の社会還元	P.28
	酪農生産への貢献	P.29
	雪印種苗(株)(ゆきたねネット、トータルサポート室)	P.30

雪印メグミルクグループ グループ会社紹介

グループ各社でもCSRリーダーを中心にCSR活動を推進しています。

雪印種苗(株)

設立	1950年12月
資本金	4,643百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	北海道札幌市
代表者	赤石 真人
事業内容	種苗・農畜産物の生産および販売、飼料の製造および販売、造園事業、種苗の品種改良および試験研究



人事総務部
総務課長
山崎 伸明

すべての行動規範である「雪印種苗行動基準」に従業員一人ひとりへ浸透・定着させ、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)においてバランス良く活動していきます。

ハケ岳乳業(株)

設立	1954年1月
資本金	60百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	長野県茅野市
代表者	秋元 毅一郎
事業内容	牛乳・乳飲料・発酵乳の製造および仕入販売、チーズの加工、運送取扱業

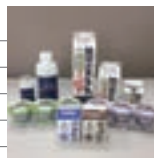


経営管理部
担当部長
小口 横

1954年創業以来、「安全・安心」をモットーに努力研鑽を積み重ねてきました。「ハケ岳の自然を、そのままご家庭へ」。ハケ岳乳業はよりよい食文化の創造を目指していきます。

いばらく乳業(株)

設立	1959年1月
資本金	117百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	茨城県水戸市
代表者	川崎 浩
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザートなどの製造販売



営業部 課長
高木 将樹

一人ひとりが企業行動憲章を理解し、企業市民としての責任を自覚することに努め、企業活動を通じて「いばらく」に集う人々の調和・つながりを深め、社会から信頼され続ける会社を目指してまいります。

チェスコ(株)

設立	1957年3月
資本金	472百万円
グループ計持株比率	96.6%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	本村 直之
事業内容	ナチュラルチーズ、食料品、酒類、雑貨の輸入および製造・加工販売

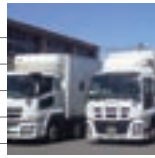


管理本部長
太田 昭彦

世界からのおいしいチーズをお届けし、食卓を豊かにすることが私たちチェスコの使命です。厳選したナチュラルチーズを取り揃え、全国のショップで皆様のお越しをお待ちしております。

直販配送(株)

設立	1980年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
本社所在地	東京都渋谷区
代表者	田邊 良一
事業内容	共同配送センター運営事業、チルド商品配送事業、一般貨物運送事業



CSR推進部長
前川 和男

人手不足、高齢化、長時間労働、エネルギー環境対策等々、様々な課題への取組み、企業の社会的責任の重要性を一人ひとりに浸透するように弁護士による研修、事例検討、情報発信ツール作成など積極的に取り組みます。

(株) クレスコ

設立	1948年8月
資本金	38百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都北区
代表者	町田 幸司
事業内容	食品包装資材、アイスクーンの仕入販売



取締役
田中 高士

長年培ってきた食品包装資材の開発・製造の知識とノウハウをベースに、包装資材全般の取扱いを行っている総合パッケージカンパニーです。経済や環境に配慮した包装資材の提案を行い社会に貢献していきます。

(株) エスアイシステム

設立	1997年1月
資本金	400百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	齋藤 孝宣
事業内容	チルド・フローズンを中心としたベンダー、商品販売事業と共配センター運営事業



経営企画本部
人事・総務部
人事総務課 課長
内田 健児

創立20周年を迎え初心に帰帰し、従業員一人ひとりに「エスアイシステム行動基準」を正確に理解し、実行できる内容の社内報を発信、CSRアンケート結果を重視した研修を実施・推進・継続してまいります。

雪印オーストラリア(有)

設立	1992年12月
資本金	21百万A\$
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	メルボルン(オーストラリア)
代表者	福田 忠己
事業内容	育児用粉ミルクおよび白カビ系チーズの製造販売、乳原料の輸出入



管理部長
来栖 淳

安全・安心な粉ミルクや白カビ系チーズなどの商品をアジアおよび豪州国内にお届けすることにより社会に貢献してまいります。また、チャリティへの参加など地域社会への貢献にも積極的に取り組んでおります。

みちのくミルク(株)

設立	1996年10月
資本金	466百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	宮城県大崎市
代表者	小原 勝義
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザートなどの製造販売



取締役 総務部長
庄子 慶之

工場見学でどのように牛乳が製造されているかを来て、見て、飲んで、楽しく学べます。また、地元の食の祭典「おおさき食楽まつり」での牛乳の試飲会や工場前国道の花壇花植えなど地域行事にも積極的に参加しています。

三和流通産業(株)

設立	1954年1月
資本金	450百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	竹島 昭一
事業内容	日配チルド食品などの卸売事業、共配センター事業



取締役 管理本部長
永田 敏広

CSR経営をベースとしてチルド食品に特化した事業経営を展開し、おいしさと健康をお客様の心に最高の鮮度でお届けします。

ニチラク機械(株)

設立	1954年4月
資本金	50百万円
グループ計持株比率	67.6%
本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	原田 勉
事業内容	食品製造を主体としたプラントおよび機械の設計、製造、施工、販売、修理およびメンテナンス



総務部長
斉藤 宏司

「酪農・乳業への貢献」を目的として、6次産業化を目指す酪農家にチーズをはじめとする乳製品の製造技術・機器を提供しているエンジニアリング会社です。

(株)ロイヤルファーム

設立	2001年2月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	48.5%
本社所在地	青森県十和田市
代表者	西根 俊政
事業内容	肉用牛の生産・販売



取締役 業務部長
兼指導部長
西井 信

子会社の直営3牧場と預託農家で7,300頭の肥育牛を飼養。食品として牛を取り扱い、「安全・安心のおいしい牛肉」となるよう目指して取り組んでいます。

雪印ビーンスターク(株)

設立	2002年8月
資本金	500百万円
グループ計持株比率	80.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	平田 公孝
事業内容	育児用品事業、ライフケア事業、機能性食品事業、受託・余乳事業



取締役(経営管理部・コンプライアンス担当)
玉本 裕一

当社では、赤ちゃんとお母様の健康をサポートするため、ビーンスタークマム商品の売上の一部を「公益財団法人日母おぎゃー献金基金」「認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)」に寄付しています。

グリーンサービス(株)

設立	1980年11月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	70.0%
本社所在地	東京都調布市
代表者	菅原 尚則
事業内容	CVS・スーパーマーケットのチルドセンター受託、全農殺菌乳の輸送、雪印メグミルクの受注センターおよび入出庫業務の受託他



業務課長
辰野 鉄弥

当社は事業の特性からアルバイトの比率が70%を超えております。その中で雪印メグミルクの指導の下、各場所で毎月テーマを決めCSR会議を行っており、その結果を全員に周知できるよう、活動をしております。

(株)雪印こどもの国牧場

設立	1965年8月
資本金	10百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	神奈川県横浜市
代表者	手島 隆二
事業内容	牛乳の製造、牧場・動物園・食堂・売店の経営



総務企画部長
山口 雅也

当牧場では、「酪農教育ファーム認証牧場」として「ふれあい牧場学校」の開催、実習などの受け入れ、乳搾り体験やバター・チーズ作り教室の定期的開催などを行うとともに、牛以外の動物とのふれあいも大切にしています。

台湾雪印(株)

設立	1992年12月
資本金	7百万NT\$
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	台北(台湾)
代表者	小原 康嗣
事業内容	育児用粉乳、乳製品などの輸入・販売



営業部 南部営業主任
郭 志清

台湾雪印では、台湾国内の児童福祉施設などへ粉ミルクなどの寄付を届けることにより、積極的に社会貢献活動を推進しています。社会全体に貢献する一員であり続けたいと思っています。

(株)雪印パーラー

設立	1961年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	北海道札幌市
代表者	小山内 薫
事業内容	食堂・売店経営、乳製品などの販売



管理部長
首藤 俊昭

2017年4月に本店を札幌時計台近くに移転いたしました。移転を機にこれまで以上に安全・安心なおいしいメニューをご提供することで酪農・乳業への貢献度を高めるべく取り組んでいます。

甲南油脂(株)

設立	1992年7月
資本金	100百万円
グループ計持株比率	51.0%
本社所在地	兵庫県神戸市
代表者	遠藤 悟
事業内容	マーガリン類、ショートニング、ラード、チーズ、バターなどの製造販売



総務部 総務部長
川畑 誠一郎

商品の生産を通じて、お客様や取引先から信頼され、必要とされる会社を目指しております。2017年下期のFSSC22000認証取得に向けて、従業員一丸となって取り組んでいます。

(株)YBS

設立	1971年4月
資本金	30百万円
グループ計持株比率	100.0%
本社所在地	東京都新宿区
代表者	國本 温史
事業内容	ビル総合管理、警備業、建築業務、損害保険代理業、人材派遣、営業・管理・生産品質などの各種ビジネスサポート業務

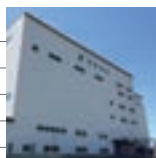


常務取締役
坂口 高司

2016年度はCSRアンケートの結果を踏まえ、職場のコミュニケーションを基本として活動しました。2017年度は各職場でCSR勉強会を開催して活動を推進します。

道東飼料(株)

設立	2001年7月
資本金	300百万円
グループ計持株比率	60.0%
本社所在地	北海道釧路市
代表者	大久保 修市
事業内容	配合飼料の製造・販売



管理部 管理課長
門戸 吉照

安心・安全・高品質な配合飼料の生産と供給を通じて酪農・畜産の発展を支援し、地域社会に貢献します。また、地域清掃活動への参加や「道東飼料行動基準」読み合わせなどの活動を通じてCSR活動を推進しています。

ステークホルダーメッセージ

徹底した消費者重視と社外の目の活用は 他社の模範、今後は社会課題の解決への 積極的関与を期待



サステナビリティ消費者会議 代表

古谷 由紀子 様

2004年～2012年まで企業倫理委員会のメンバーとして、2012年以降は消費者部会への参加を通して貴グループのさまざまな取組みに関わってきました。そこで感じる印象は、徹底した消費者重視と社外の目を活用したガバナンスです。毎年変わらず過去の不祥事を活動報告書に掲載し、内部通報件数や苦情検査件数を公表する姿勢にそれらが表れています。また取締役会の諮問機関としての企業倫理委員会を軸に品質部会、消費者部会、表示部会などに積極的に社外の目を取り入れた継続したコミュニケーションの実践も同様であり、他社の模範となっています。

しかし、世界を、日本を見渡せば、2015年策定のパリ協定やSDGs（持続可能な開発目標）などで示された課題が山積み、企業にも積極的な関与が求められるようになっていきます。貴グループは持続可能性に関わる数多くの基本的な取組みはなされていますが、現在多くの市民組織が問題視する、パーム油などの資源問題、異物混入などに対する消費者の過剰反応の問題、そして食糧や環境に関わる食品ロスなどをはじめとする複雑で解決困難な問題などにもっと積極的に関与してもいいのではないのでしょうか。これまでの徹底したコンプライアンスの実践における貴グループの強みを生かすならば、これらの問題解決に他社や市民組織とともに協働して取り組むことは可能と考えます。さらなる持続可能性への貢献を期待しています。

酪農・乳業一体となった取組みで 生産基盤回復へ、企業理念に沿った 大胆な事業展開を



中国生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長

東山 基 様

2017年度のスタートは例年の如く桜の花だよりから始まりましたが、気持ちの上で少し華やかに感じたのは私だけでは無いと思います。言うまでもなく2016年度は酪農関係者にとって暗雲渦巻く重苦しい一年でありました。熊本地震や東北・北海道を次々と襲った台風や豪雨から鳥取地震まで多くの酪農関係者が被災され、復興まなならぬ中、ことのほか雪の多かった冬を過ごされた同朋の皆さんの辛苦に思い至る事が一つ。又、多くの先人が営々と築いて来た“指定団体制度”を廃止にまで追い込もうとする論議に、私たちにとって重苦しく沈痛な面持ちのまま一年が経過した事からかもしれません。今、それらの論点が整理され課題は政省令の策定作業へと移行され、指定団体及び会員組織の役割に沿った組織改革に

取り組み、乳業関係者の皆様と一体となったより強固な求心力の構築に係る事となりました。私たち生産者組織としましては御社が乳業関係者のリーダーとして持てる力をいかに発揮して頂きたいとお願い致します。

酪農・乳業一体となった取り組みは必ずや新たな生産基盤回復への原動力としての息吹きとなる事と信じております。

中国生乳販連の地域内に雪印メグミルクの工場は在りません。おのずと関西の工場との関わりとなりますが、御社が育んでこられました“酪青研”の活動は活発に続けられ若い酪農家達の成長源であります。又、長年培われて来た「PHCF CO-OP牛乳」は生活協同組合の会員皆様と生産者や関係者の絆の架け橋であり、理解醸成活動意識の高揚に欠かせない大きな役割を担っています。

様々な御社の取り組みに心より感謝申し上げますと共に、地球規模で混沌とする酪農産業情勢の中で、御社の企業理念に沿った大胆な事業展開をご期待申し上げます。

多様な人材の確保、ダイバーシティ推進で、 幸せな社員、会社、社会の好循環づくりへ



一般社団法人経営倫理実践研究センター
主任 研究員
株式会社 ウェルネス・システム 研究所
代表取締役

村松 邦子 様

CSRの本質を追求し、様々なステークホルダーの要請に的確に応えながら事業活動を行うためには、社員一人ひとりが、企業理念を「自分ごと」として考え、主体的に行動していくことが必要です。雪印メグミルクグループでは、2000年、2002年に起きた事件を風化させることなく、「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」、職場単位での「CSRグループ活動」など、全従業員参加による活動を13年間にわたり継続しています。このような予防倫理活動は、2つの事件を経験していない従業員が半数以上となった今、社会から信頼される企業

であり続けるために、ますます重要となってくるでしょう。

一方、長期にわたる予防倫理活動は、マンネリ化をまねいたり、思考停止状態に陥りがちです。予防と同時に、社員がいきいきと個性や能力を発揮できるよう「雪印メグミルク バリュー」の3つの価値観、「主体性」「チャレンジ」「チームワーク」を軸とした職場環境づくり、志向倫理の実践にも注力していただきたいと思います。多様な人材の確保により、多様な視点を経営に活かすことは、イノベーションを生み出すとともに、リスクマネジメントにもプラスに働きます。

「女性活躍推進」「多様な働き方」を核としたダイバーシティ推進を着実に進め、幸せな社員、会社、社会の好循環づくりに貢献されることを期待しています。

本業を通じたCSR活動で社会の持続的 発展に貢献します



雪印メグミルク株式会社
取締役専務執行役員 CSR担当

土岡 英明

雪印メグミルクグループは2011年の合併発足後、「コンプライアンスを基本とした品質保証の徹底」を最重要項目とするCSR方針を掲げ、取り組んでまいりました。

2017年より「雪印メグミルク グループ長期ビジョン 2026」がスタートしています。

CSR方針にある考え方を基盤に置きながら、今後は雪印メグミルクグループが、

本業を通じて解決すべき社会の課題は何か、社会が持続的発展を遂げていくために何をしていけばよいのかについて、これまでの取り組みも振り返りながら考えていきたいと思っています。

今回の「CSR活動報告書2017」にいただいたご意見を充分に参考に、企業理念実現のため雪印メグミルクグループ一体となってCSR活動のさらなる推進に取り組んでまいります。

雪印メグミルクグループ「CSR活動報告書2017」への ご意見・ご感想をお聞かせください。

雪印メグミルクグループの「CSR活動報告書2017」をご覧ください、ありがとうございます。本報告書についてのご意見・ご感想などをお聞かせください。お手数ですが、アンケート用紙にご記入の上、お送りいただきますようお願い申し上げます。

本報告書の冊子をご希望の方は、下記へご連絡願います。

● 雪印メグミルク お客様センター

0120-301-369 (9:00～19:00 年中無休)

雪印メグミルク ホームページにも、本報告書を公開しております。

● CSRの取組み > CSR活動報告書

<http://www.meg-snow.com/csr/report/>



未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルク



雪印メグミルクグループは「森の町内会」の活動に賛同しており、この報告書には適切に管理された森林から生まれた「FSC®認証紙」を使用し、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立っています。また、有害なVOC（揮発性有機化合物）成分が含まれていない植物油インキを使用し、印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で印刷しています。文字は、読みやすさに配慮した書体「UD（ユニバーサルデザイン）フォント」を使用しています。

2017年6月発行